

第861回宮城県教育委員会定例会日程

日 時：平成27年1月15日（木）午後1時30分から

場 所：県行政庁舎 16階 教育委員会会議室

1 出席点呼

2 開会宣言

3 第860回教育委員会会議録の承認について

4 第861回教育委員会会議録署名委員の指名

5 課長報告等

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| (1) 平成26年度宮城県学力・学習状況調査について（速報） | （義務教育課） |
| (2) 平成25年度における不登校児童生徒の追跡調査結果の概要について | （義務教育課） |
| (3) 宮城県特別支援教育将来構想審議会答申について | （特別支援教育室） |
| (4) 平成26年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について | （高校教育課） |
| (5) 宮城県総合運動公園総合体育館ネーミングライツ契約の更新について | （スポーツ健康課） |

6 資料（配付のみ）

- | | |
|--|----------|
| (1) 教育庁関連情報一覧について | （総務課） |
| (2) 平成27年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について | （高校教育課） |
| (3) 宮城県美術館特別展「わが愛憎の画家たち－針生一郎と戦後美術－」の開催について | （生涯学習課） |
| (4) 東北歴史博物館特別展 東日本大震災復興祈念「みちのくの観音さま一人に寄り添うみほとけ」の開催について | （文化財保護課） |

7 次回教育委員会の開催日程について

8 閉会宣言

平成２６年度宮城県学力・学習状況調査結果について（速報）

1 実施状況

(1) 調査の目的

- ① 宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、今後の教育施策の企画・立案に活用する。
- ② 本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析することにより、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図る。

(2) 調査実施期日等

平成２６年１０月２８日（火）

(3) 調査対象（仙台市を除く）

- ① 小学校５年生及び特別支援学校小学部５年生の全児童
- ② 中学校２年生及び特別支援学校中学部２年生の全生徒

(4) 調査事項及び内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校５年生：国語，算数
 - ・中学校２年生：国語，数学，英語
 - ※基礎・基本に関する問題が全体の約８割
 - ※思考力・判断力・表現力に関する問題が全体の約２割
- ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

(5) 実施校

- ① 小学校調査 ２７３校
- ② 中学校調査 １４３校

(6) 実施児童生徒数

- ① 小学校調査 １１，２８７人
- ② 中学校調査 １１，４７８人

2 調査結果

(1) 教科に関する調査結果

- 全体の平均正答率では、小5、中2の全ての教科で「全国的期待値（参考値）」※（以下「全国値」という。）との5ポイント以上の有意差は見られなかった。
- 「基礎・基本」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、小5・中2ともに、全ての教科で全国値を下回っており課題が見られる。
- 小5の国語では、「話すこと・聞くこと」は身に付いているが、「書くこと」に課題がある。また、算数では、「数と計算」、「図形」、「数量関係」については概ね身に付いているが、「量と測定」にやや課題がある。
- 中2の国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。数学では、全領域において全国値を下回っている。特に「資料の活用」に課題が見られる。また、英語では、「聞くこと」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

(2) 学年・教科ごとの宮城県平均正答率（全体、基礎・基本、思考力・判断力・表現力）

校種	教科	全体		基礎・基本		思考力・判断力・表現力	
		宮城県 平均正答率	全国値	宮城県 平均正答率	全国値	宮城県 平均正答率	全国値
小学校	国語	63.8	67.7	67.9	72.0	46.0	48.8
	算数	74.4	74.0	76.2	76.4	67.5	64.7
中学校	国語	65.3	67.6	67.4	69.7	53.7	55.4
	数学	58.9	63.2	61.5	66.0	49.7	53.1
	英語	69.3	70.7	73.8	75.3	53.9	55.3

※全国的期待値（参考値）について

実施初年度であり、経年比較ができないことから、全国的な水準で期待すべき想定平均正答率を任意に設定した参考値である。

※平均正答率を示した表において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以上下回ったもの。

(3) **小学校国語**

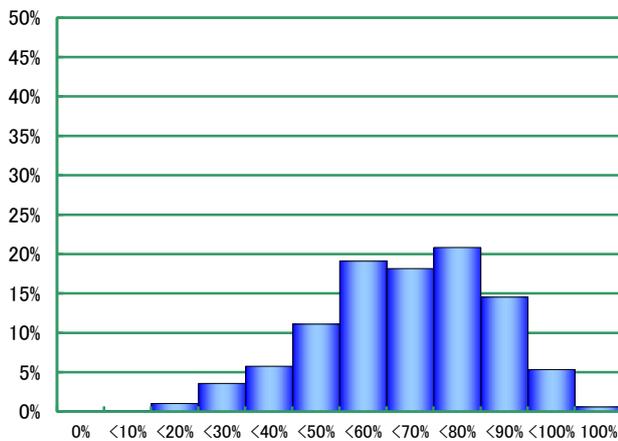
○「話すこと・聞くこと」は身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を2ポイント以上下回っておりやや課題が見られる。
- ・領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」は身に付いているものの、「書くこと」に課題が見られる。また、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。

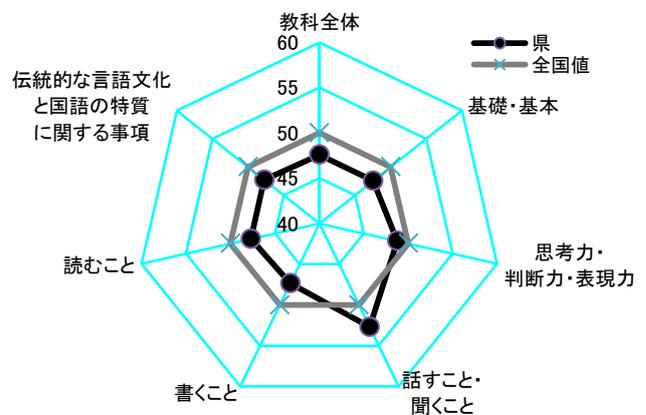
〈区別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	63.8	67.7
	基礎・基本	67.9	72.0
	思考力・判断力・表現力	46.0	48.8
領域	話すこと・聞くこと	68.6	61.3
	書くこと	▼ 59.9	67.5
	読むこと	61.2	66.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.9	71.2

〈正答率度数分布〉



〈区別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

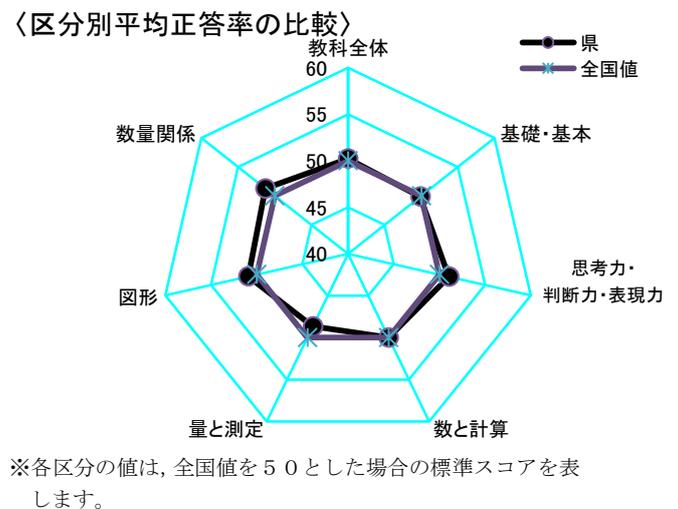
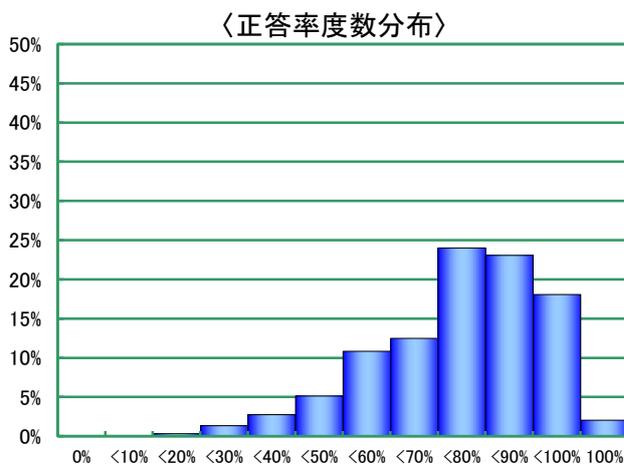
(4) **小学校算数**

○「数と計算」、「図形」、「数量関係」については概ね身に付いているが、「量と測定」にやや課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかった。「思考力・判断力・表現力」については、全国値をやや上回っており概ね身に付いている。
- ・領域別に見ると、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、「量と測定」については全国値を下回っており、やや課題が見られる。

〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	74.4	74.0
	基礎・基本	76.2	76.4
	思考力・判断力・表現力	67.5	64.7
領域	数と計算	78.4	78.4
	量と測定	74.9	79.1
	図形	75.8	73.9
	数量関係	67.9	65.4



(5) 中学校国語

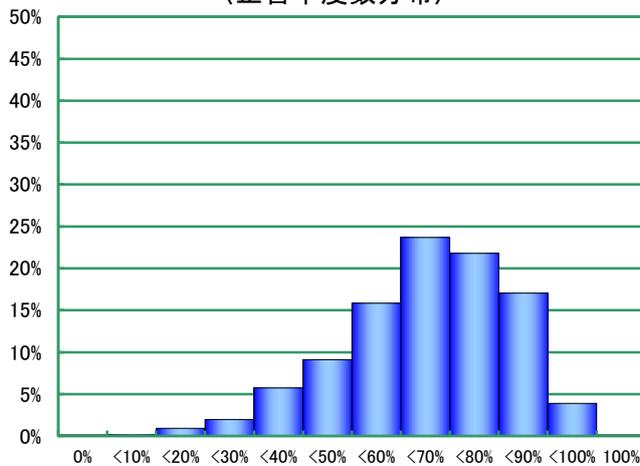
○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。
- ・領域別に見ると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国値をやや上回るものの、その他の領域については全国値を下回っている。特に「書くこと」については、全国値を下回っており課題が見られる。また、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。

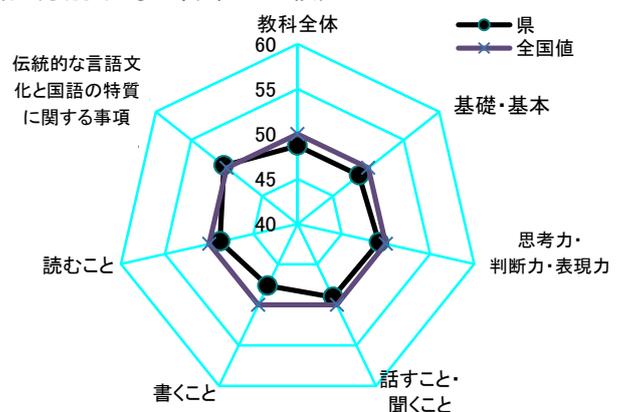
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	65.3	67.6
	基礎・基本	67.4	69.7
	思考力・判断力・表現力	53.7	55.4
領域	話すこと・聞くこと	75.3	77.4
	書くこと	▼ 67.0	75.8
	読むこと	59.9	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.5	64.7

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

(6) **中学校数学**

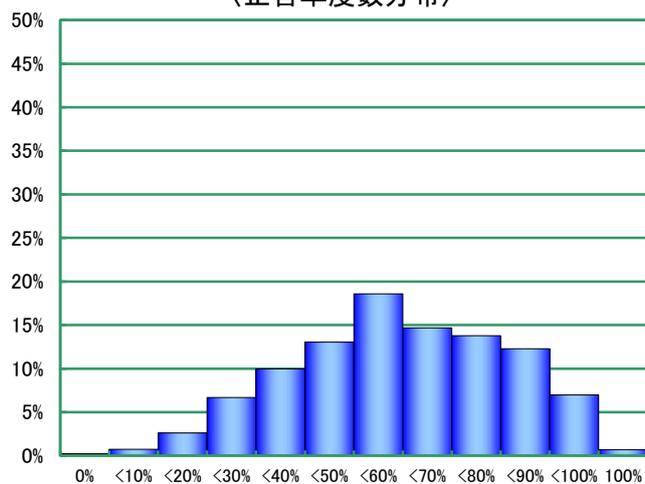
○全領域において全国値を下回っている。特に「資料の活用」に課題が見られる。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」とともに、5ポイント以上の有意差が見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。
- ・領域別に見ると、特に「資料の活用」で全国値を下回っており課題が見られる。また、「数と式」「図形」及び「関数」についても、5ポイント以上の有意差が見られなかったものの全国値を下回っておりやや課題が見られる。

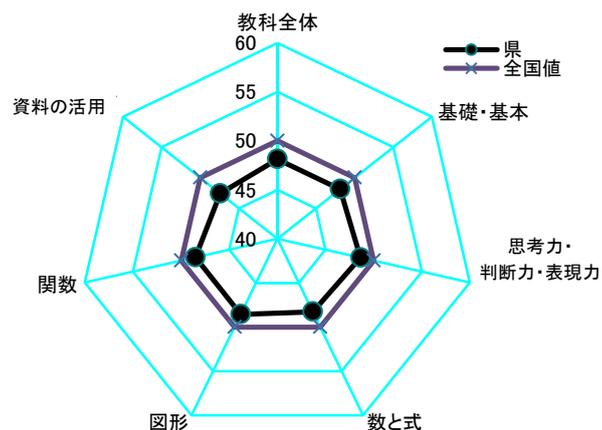
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	58.9	63.2
	基礎・基本	61.5	66.0
	思考力・判断力・表現力	49.7	53.1
領域	数と式	63.6	68.2
	図形	49.3	53.3
	関数	57.9	61.3
	資料の活用	▼ 61.2	66.3

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

(7) **中学校英語**

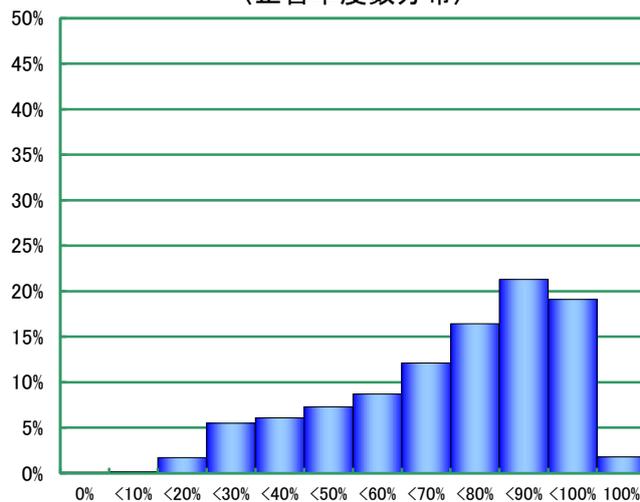
○「聞くこと」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」とともに、5ポイント以上の有意差は見られなかった。
- ・領域別に見ると、「聞くこと」は全国値を上回っており概ね身に付いているものの、「書くこと」については、全国値を下回っており課題が見られる。

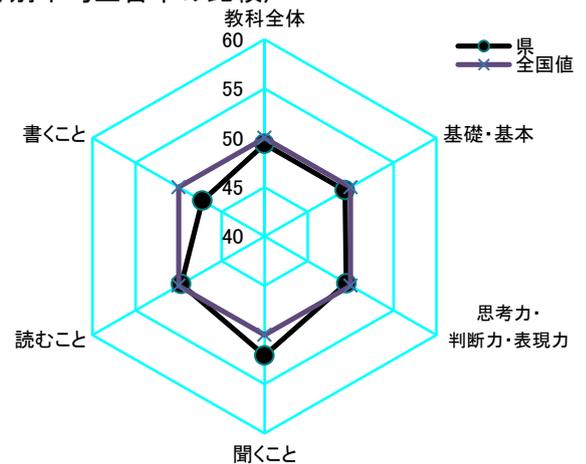
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	69.3	70.7
	基礎・基本	73.8	75.3
	思考力・判断力・表現力	53.9	55.3
領域	聞くこと	76.2	71.9
	読むこと	70.9	71.7
	書くこと	▼ 60.0	68.1

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

(8) 質問紙調査結果の概況

〈児童生徒質問紙調査の結果〉

① 学力向上に向けた5つの提言と関連する事項

○先生が話を聞いてくれる、良いところを認めてくれるとしている割合は、小5で8割を超えるなど、小5、中2とも肯定的な回答をした割合が高い。

○授業のはじめに目標を示されていると思っている割合は、小5、中2とも高く、小6、中3よりも高い傾向にある。一方、授業の最後に振り返る活動をよく行っていると思っている割合は、小5、中2とも低く課題がある。

○自分の考えをノートに書くようにしている割合は、小5で7割を超えているが、中2では5割程度と低く課題がある。

○平日、家庭などで小5で1時間以上、中2で2時間以上勉強している割合は、小5で6割に満たず、中2では2割程度と低く課題がある。いずれも、小6、中3よりも低い傾向にある。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成26年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
1	先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか	69.7		65.5	
2	先生はあなたの話を聞いてくれますか	86.8		79.5	
3	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか	81.0		75.8	
4	授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	80.5	77.5 -4.5	73.5	67.7 -3.8
5	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	66.1	68.0 -3.9	52.2	53.0 -0.3
6	授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか。	73.9		50.6	
7	家で学校の授業の予習をしていますか	44.2	50.2 +7.0	36.8	46.7 +12.5
8	家で学校の授業の復習をしていますか	57.9	66.1 +12.1	50.6	63.0 +12.6
9	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：1時間以上、中学校：2時間以上）	56.8	64.1 +2.1	22.1	29.6 -5.5
10	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：2時間以上、中学校：3時間以上）	21.8	22.0 -2.0	13.1	15.6 -1.3

② 震災の影響

○家庭学習がやりにくい、授業に集中できない、気持ちが落ち着かなくなるなど、震災の影響を感じている割合は、小5、中2とも1割～2割程度となっており、特に小5が高い。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
11	震災前に比べ、家庭学習がやりにくくなりましたか	18.6		13.0	
12	突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか	13.6		5.4	
13	突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか	17.6		11.9	

③ 学習の理解度

○国語、算数・数学、英語の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小5、中2とも7割を超え高く、特に小5の国語、算数が高い。いずれも、小6、中3よりも高い傾向にある。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
14	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.7	78.8 -1.3	82.9	74.5 +2.5
15	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	89.0	78.2 -1.4	71.8	71.4 -0.1
16	英語の授業の内容はよく分かりますか			72.1	

④ 基本的な生活習慣

○朝食を毎日食することなど、学力向上を支える基本的な生活習慣については、小5、中2ともに肯定的な回答をした割合が高く概ね身に付いている。

○3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、中2で1割以上となっているとともに、LINEなどの無料通信アプリを1時間以上使っている生徒が3割を超えており課題がある。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
17	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.0	81.7 +2.5	77.2	77.5 +3.4
18	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.3	90.9 0.0	92.3	92.9 +0.8
19	朝食を毎日食べていますか	96.5	96.8 +0.8	94.5	94.6 +1.1
20	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDをみますか →3時間以上と回答した割合	27.2	39.6 +1.6	25.4	30.3 -1.2
21	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか →3時間以上と回答した割合	12.3	17.4 +0.4	18.0	19.8 -0.5
22	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか →3時間以上と回答した割合	3.3	4.8 -0.2	15.6	18.8 -1.0
23	平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか →1時間以上と回答した割合	5.4		31.1	

※20から23については、数値が高いほど、また、全国との比較の値が大きいほど改善の必要性が高い。

〈学校質問紙調査の結果〉

○将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小5、中2とも高く、特に中2が9割を超え高い。小6、中3よりはやや低い傾向にある。

○算数、数学の指導において、補充的な学習の指導及び発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小5で5割程度、中2で2～3割程度と低い。特に補充的な学習では、小6、中3よりもかなり低くなっている。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
1	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか	89.4	93.2 +2.6	97.2	96.5 +2.9
2	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか	78.4	82.5 -0.7	82.5	84.7 -1.4
3	算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行ったか	54.6	89.8 +0.3	31.5	88.1 +0.5
4	算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行ったか	52.0	54.4 -3.9	24.5	59.4 -1.9
5	英語の指導として、補充的な学習の指導を行ったか			22.4	
6	英語の指導として、発展的な学習の指導を行ったか			20.3	
7	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったか	83.9	86.6 +14.6	94.4	96.0 +1.8

※示している数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計した割合

3 今後の対応

- 教科全体の正答率は、全ての教科で全国値との5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、基礎・基本の問題の正答率が小5・中2ともに、全ての教科で全国値を下回っており、基礎学力を定着させるための取組の改善が必要である。
- 小5、中2の国語の「書くこと」の領域や中2の英語の「書くこと」の領域等に課題が見られるとともに、中2の数学では全領域で全国値を下回ったことから、今後さらに詳細な分析を行い対策を講じていく。
- 学力向上に向けての基本となる「5つの提言」については、小5・中2ともに、「授業の最後に振り返る活動」等に課題が見られたことから、指導主事の学校訪問の機会をとらえて全ての学校でさらに徹底するよう働き掛けていく。
- 小5や中2で補充的な学習の指導及び発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合が低い傾向にあり、学習内容の定着に向けて、全学年で個々の理解度に応じた指導の充実を図っていくよう各学校へ促していく。
- 震災の影響を感じている児童生徒が多くいることから、子供の心のケアに努め、家庭学習を含め、落ち着いて学習ができるよう学習環境の整備をより一層進めていく。
- 中2で、LINEなどの無料通信アプリを1時間以上使っている生徒が3割を超えており対策を講じる必要がある。
- 今後、検証改善委員会を立ち上げ、今回の調査結果の詳細な分析を進め、昨年4月に実施された全国学力・学習状況調査の分析と連動させながら、各学校の検証改善サイクルを確立するなど、市町村教育委員会と連携して学力向上に向けた具体的な取組を進めていく。

平成２５年度における不登校児童生徒の追跡調査結果の概要について

1 調査の目的

平成２６年度学校基本調査において、本県の不登校児童生徒の出現率が依然として高いことを受けて、平成２５年度における不登校児童生徒の家庭環境や本人の特性、震災の影響等との関連等について追跡調査を行い、今後の不登校対策を講じる際の基礎資料を得ることを目的としたもの。

2 調査対象及び回答者

(１) 児童生徒に関する調査：小学校２８８名，中学校１，１５６名（仙台市を除く）

(２) 学校の取組に関する調査：小学校３８５校，中学校 ２０２校（仙台市を含む）

※ (１)，(２) とともに調査票を配布し，各小・中学校の教頭等が回答した。

3 調査期間

平成２６年８月２９日から平成２６年１０月７日まで

4 調査結果の概況

(１) 児童生徒に関する調査（別冊資料P 1～P 5参照）

- 不登校になった学年は，不登校児童生徒全体の約35%，中学生で不登校になった生徒の54%が中1から不登校になっており，中1ギャップが鮮明になっている。
- 不登校のきっかけを分析した結果，その要因は複合的ではあるものの，中学校では，「無気力」，「いじめを除く友人関係をめぐる問題」，「学業の不振」など，生徒自身に関わる要因の割合が高い。小学校では，「親子関係をめぐる問題」，「家庭生活環境の変化」など，中学校に比べて家庭生活に関わる要因の割合が高い。
- 不登校の要因と震災の影響について分析した結果，「震災の影響もあると思われる」と回答した不登校児童生徒の割合が中学校で9.1%（昨年度6.7%），小学校で11.1%（昨年度11.0%）となっており，増加傾向にある。不登校出現率が高い原因については，従来の不登校出現の要因に，震災による影響が加わったものと考えられる。
- 震災の影響としては，「肉親を亡くしたことなどによる家族関係の急激な変化」，「仮設住宅での生活や転居など住環境・生活環境の変化」，「転校等による人間関係の変化」などがあることが記述回答から分かった。

(２) 学校の取組に関する調査（別冊資料P 6～P 11参照）

- 不登校生徒出現率の低い中学校では，魅力ある学校づくりに関わる項目のうち，特に「活躍の場の設定」「自己有用感・自己存在感をはぐくむ活動の設定」「理解の不十分な生徒の発見」に取り組んでおり，不登校児童がいない小学校では「全員の子供に声がけ」「授業のねらいや課題の明確化，指導体制等の工夫」「活躍の場の設定」に積極的に取り組んでいる。
- 早期発見・早期対応に関する項目については，中学校では不登校生徒出現率と明確な相関関係はみられないが，不登校出現率の低い中学校では，「中1ギャップへの十分な対応」「欠席に電話や家庭訪問で対応」「気になる変化を保護者と共有」することなどの取組割合が比較的高い。また，不登校児童がいない小学校では「複数の目で，教室以外での情報収集」「チェックリストを活用して，不登校のサインを見逃さない」「子供との触れあいの時間づくり」などに積極的に取り組んでいる。
- 事後の対応・ケアに関する項目については，不登校生徒出現率が低い中学校，不登校児童がいない小学校ともに「いつでもチームで対応する体制」が整備されている。「不登

校に関する研修」「関係機関について保護者に周知」については、出現率に関わらず全体として取り組んでいる割合が低い。

5 今後の対応

(1) 「学力向上に向けた5つの提言」の徹底

学校が「分かる授業づくり」や「児童生徒の活躍の場づくり」に努めたり、「複数の目で情報収集」を行ったりしているほど不登校児童生徒出現率が低いことから、これらの取組が不登校予防に有効であると考えられる。授業を核とした、魅力ある学校づくりを推進する必要があると考え、指導主事の学校訪問指導の機会をとらえて、「学力向上に向けた5つの提言」の徹底を図っていく。

(2) 中1ギャップ対策を中心とした不登校対策推進協議会の設置

今年度、有識者、関係諸機関担当者による不登校対策推進協議会を立ち上げ、本調査結果と考察について意見を伺い、中1ギャップへの対応に重点を置いた不登校対策をまとめる。それを踏まえて、不登校対策のリーフレットを作成し、各市町村教育委員会、各学校はもとより、各市町村保健福祉担当課にも配布し、不登校対策の周知・啓発を図っていく。

(3) 研修をととした共通理解と指導力の向上

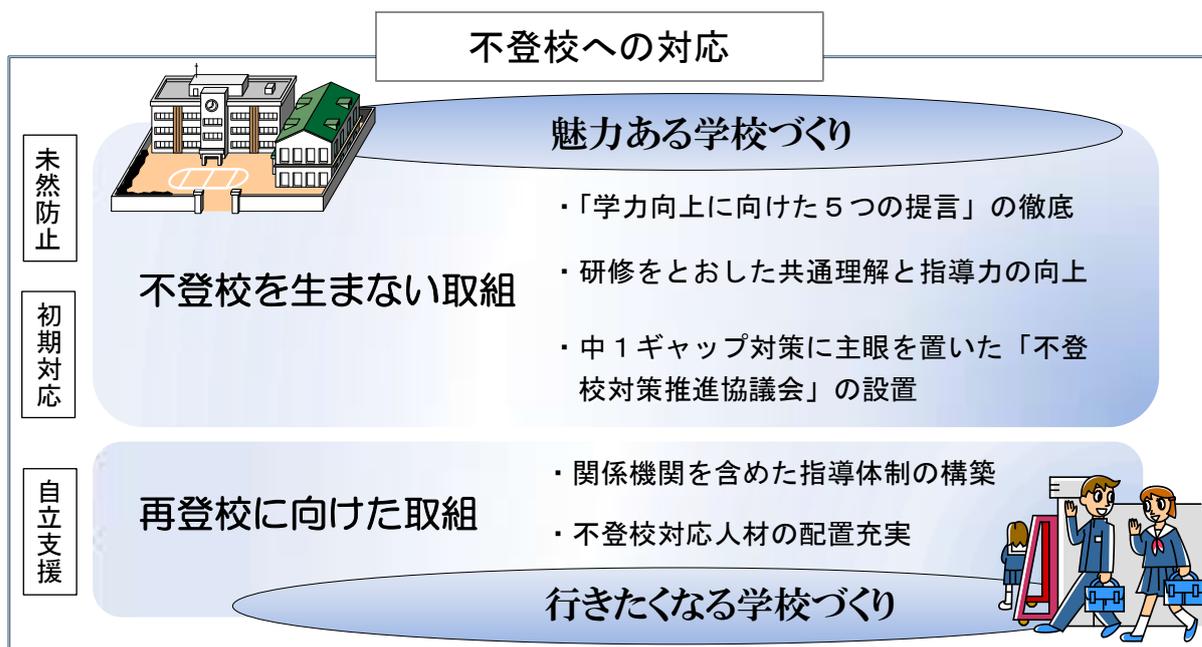
追跡調査の結果を踏まえ、県内の全小・中学校の教頭等及び市町村教育委員会、教育事務所指導主事を対象に、「宮城県小・中学校不登校問題等対応研修会」を開催し、調査結果の分析や考察、県の対応策等について説明し共通理解を図っていく。また、生徒指導に関する有識者を講師として招聘し、「不登校を生まない対応の在り方や学校の組織的な取組」についての講演会を行い、学校での具体的な取組について研修を深めていく。

(4) 不登校対応人材の配置拡充

不登校児童生徒が多い市町村教育委員会や学校について、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置するほか、学校教育活動復旧支援員や生徒指導支援員、「登校支援ネットワーク」の訪問指導員の拡充を図っていく。

(5) 関係機関を含めた対応体制の構築

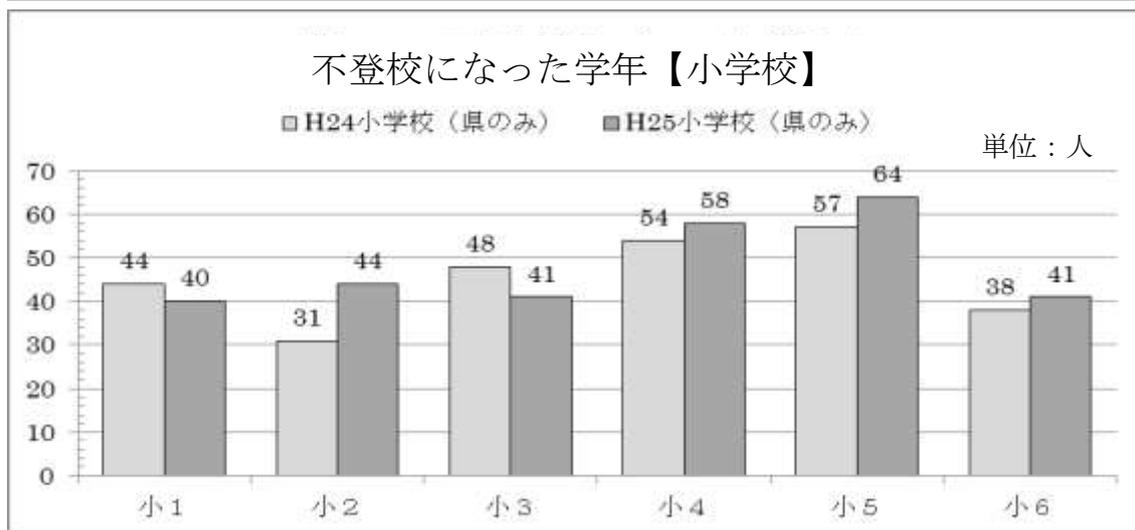
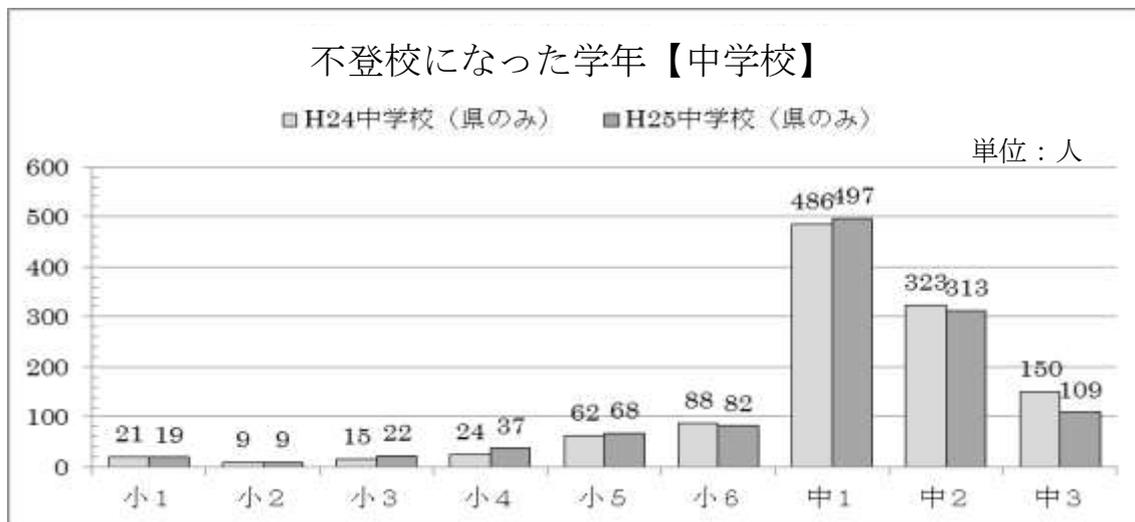
学校種間及び関係機関との連携については、不登校の有無にかかわらず体制を整えておくことが重要であり、震災の影響を考慮していくことも必要であることから、県教育委員会としては、市町村教育委員会や保健福祉部局、学校現場等と情報の共有化を図りながら、更なる支援体制の構築に向けて不登校支援のネットワークづくりを図っていく。



平成25年度における不登校児童生徒の追跡調査結果の概要について

1 児童生徒に関する調査（対象：仙台市を除く）

1—① 不登校になった学年について



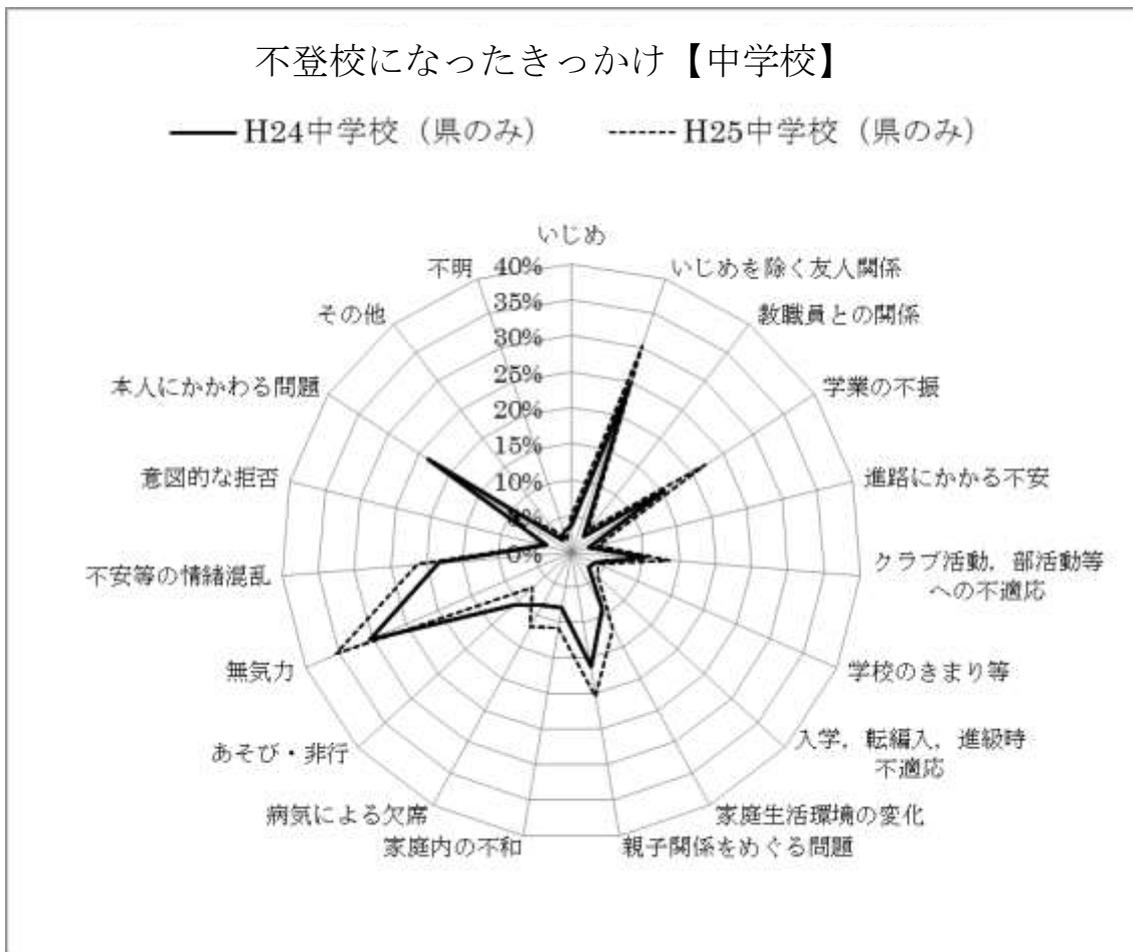
<分析>

不登校になった学年は、不登校児童生徒全体の約35%、中学生で不登校になった生徒の54%が、中1から不登校になっており、中1ギャップが鮮明になっている。

中学生については中学1年生時に大きく増えており、不登校生徒全体の42.9%に達する。中学2年生時も全体の27%以上となっており、この2つの学年を合わせると、中学生全体の70%を占める。小学校段階での未然防止対策に加え、中学1～2年生での不登校生徒の増加防止対策が重要であるという点については、昨年度の調査結果考察と同様である。

小学生については、昨年度同様に、4年生及び5年生から不登校になる児童が比較的多い傾向が認められる。この時期は思春期前期にあたり、閉鎖性の高い集団を形成しやすい時期であることから、友達関係に悩みを抱えやすく、学習内容も高度になり、学校生活に不満を感じやすい時期であること等が複合的に影響しているものと考えられる。

1-② 不登校になったきっかけについて



<分析>

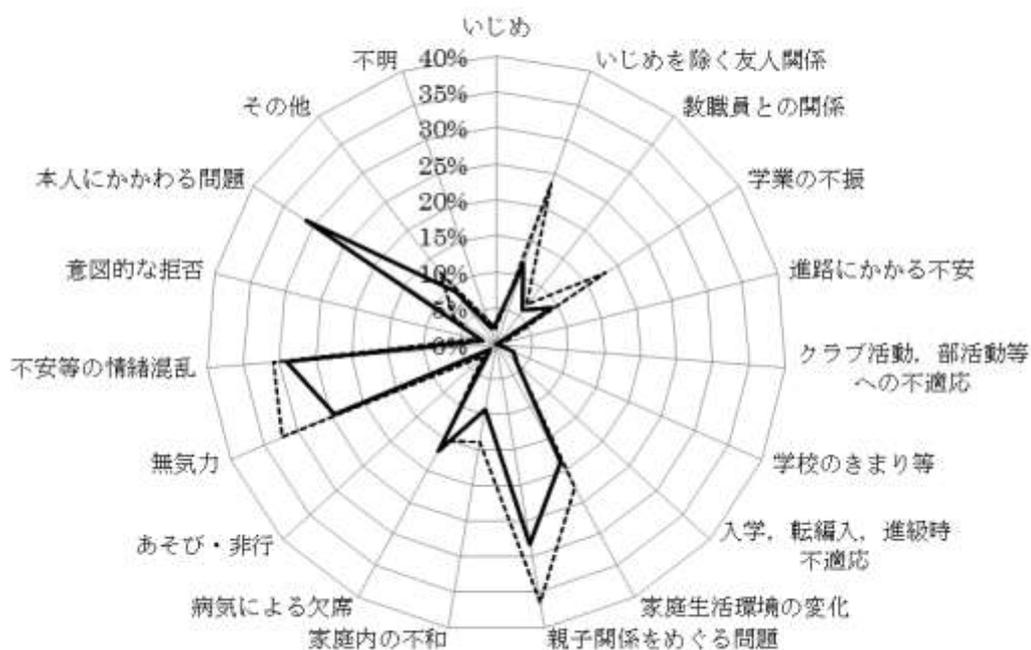
中学校では、「無気力」「いじめを除く友人関係をめぐる問題」「学業の不振」「不安等の情緒的混乱」「親子関係をめぐる問題」の割合が高い。生徒自身に関わる問題の割合が高いことから、教育相談の充実が必要であると考えられる。

昨年度との比較では、家庭環境や親子関係をめぐる問題の割合が高まっている傾向に加え、「家庭環境の急激な変化」が12.1%（昨年度9.1%）と増えていることから、震災による家庭環境への影響が時を経て現れてきているとみることもできる。

※ 「本人にかかわる問題」には、家族関係をめぐる精神的疾患、学校に登校すると腹痛を訴える、集団生活不適應、怠業、友人や家庭にかかわる複合的事由が含まれる。

不登校になったきっかけ【小学校】

—— H24小学校（県のみ） - - - - H25小学校（県のみ）



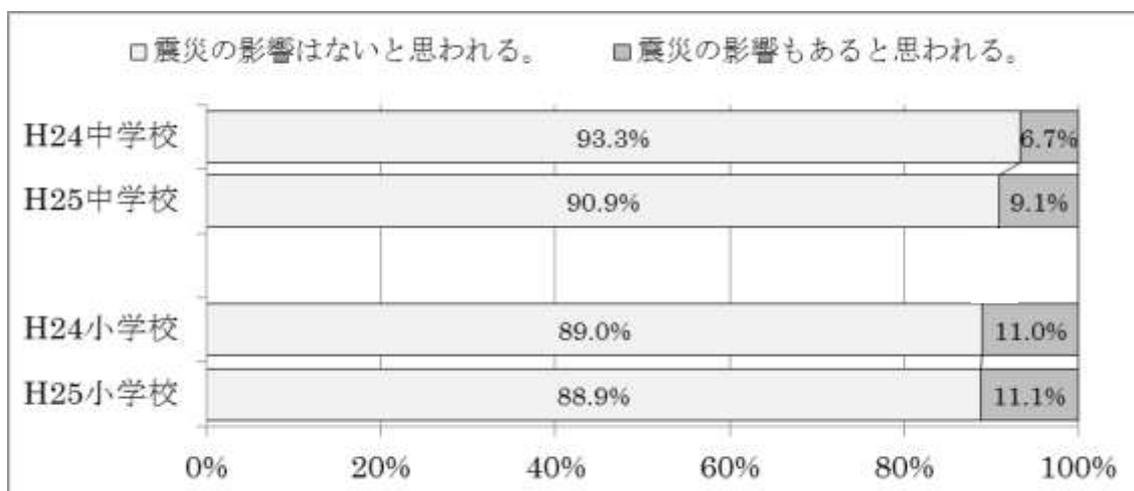
<分析>

小学校では、「親子関係をめぐる問題」「無気力」「不安等の情緒的混乱」「いじめを除く友人関係をめぐる問題」の割合が高い。中学校以上に、親子関係、家庭環境をめぐる問題の割合が増える傾向にあり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、家庭に働きかけることが重要であると考えられる。

「家庭環境の急激な変化」も22.6%（昨年度18.8%）と増加していることから、小学生についても震災の家庭環境への影響が時を経て現れてきていると考えられる。

※ 「本人にかかわる問題」には、家族関係をめぐる精神的疾患、学校に登校すると腹痛を訴える、集団生活不適応、怠業、友人や家庭にかかわる複合的事由が含まれる。

1-③ 不登校になったきっかけと震災の影響について



<考察>

中学校では9.1%（105名）、小学校では11.1%（32名）の児童生徒が「震災の影響もあると思われる」という調査結果となっており、小・中学校いずれも平成24年度調査時よりも増加している（中学校79名→105名、小学校30名→32名）。震災から3年（平成25年度末時点）が経過し、これまで発現しなかった要因が現れてきている可能性があると考えられる。長期にわたる仮設住宅での生活の影響や家族関係の変化の影響があることが記述回答からも伺うことができる。

1-④ 「震災の影響もあると思われる」要因（記述式回答より抜粋）

○家族関係の急激な変化

- ・震災後の転校と仮設住宅住まいで生活環境が変化した。また、両親の離婚も重なった。
- ・津波被害で母親が死亡、転居、仕事による父親不在の状況等により、生活のリズムが乱れた。
- ・震災孤児であり、祖父母と仮設住宅で生活するようになった。
- ・父親を津波で亡くし、精神的に不安定になった。

○家庭の経済状況の変化

- ・保護者が職を失い、家庭の環境が悪化している。
- ・家庭の経済状況が悪化し、母親の精神的不安定さが顕著になった。

○住環境・生活環境の変化

- ・避難により家庭環境が変化したことに加え、友人と離れたことが不安につながった。
- ・住居も変わり、弟妹が多く、本人が家事を担当している。
- ・仮設住宅に家族が別れて生活しており、親の目が行き届かず生活が乱れた。
- ・保護者の職場が遠くなり、児童との関わりが減った。
- ・震災で住居が損壊し、仮設住宅に住んでいる。昼夜逆転した生活を送っている。
- ・避難所や借上げアパートの生活が長くなったことによる生活環境の変化への不適応。
- ・家庭環境の変化（転出入の繰り返し、家庭内不和）による情緒的混乱。
- ・震災後に新しい住居に移転したが、隣家に住む親族との関係悪化等の生活不安が多い。

○人的被害による影響

- ・小学校時の同級生が亡くなった事によって、精神的に不安になった。

○学校環境の変化

- ・学校の統合により環境が変化し、適応できない面があつて不登校になったと考えられる。
- ・学校に登校する意味を見いだせず震災をきっかけに拍車がかかった。
- ・震災後、地震や放射線被害を恐れて、一時、他県へ転居した。友人関係や行事・学習に対する本人の不安感情が強い。

○地震・津波への恐怖心

- ・震災の被害のある場所を通して避難したときのことを思い出してしまう。
- ・震災の際の出来事などがフラッシュバックすることが続いている。
- ・地震が来るたびに過度な反応を示し、近くに親がいないと泣いてしまう。
- ・津波で親が目の前で流されそうになったことを今でも思い出す。 など

<考察>

震災の影響についての記述内容については前年度と大きく変わっておらず、家庭・学校環境の変化があつた児童生徒を取り巻く状況が長期化していることが伺える。

様々な場面で緊張や不安を強いられる状態が継続すれば、問題行動が増加していくことが予想される。スクールカウンセラーによる心のケアや魅力ある学校づくりを推進して、学校で活躍の場を得られるようにしていくことで、ストレスを解消していくことが求められている。

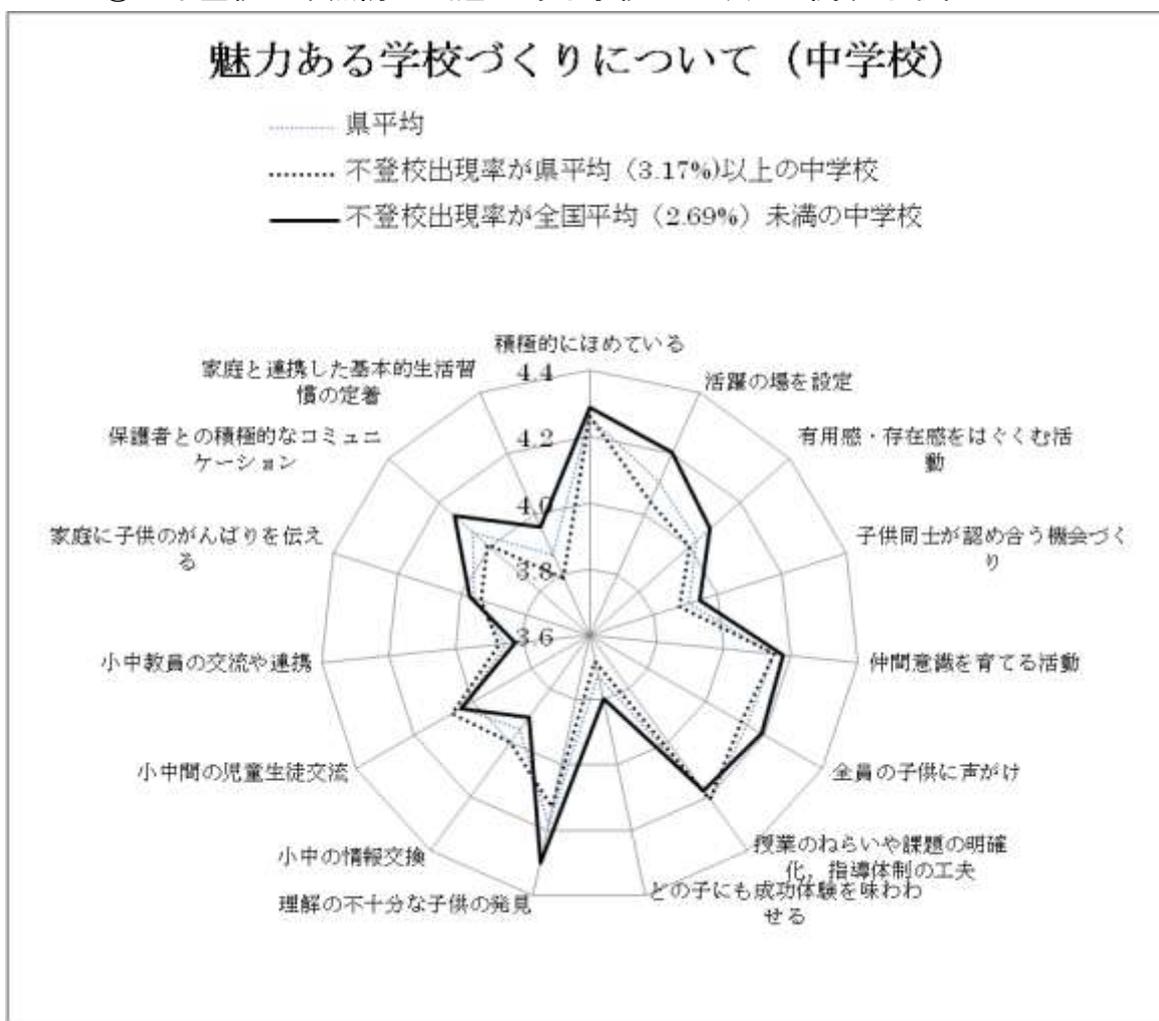
2 学校の取組に関する調査（仙台市を含む）

『不登校対策チェックシート』（義務教育課ホームページで公開中）の項目に基づいて、「魅力ある学校づくり」「早期発見・早期対応」「事後の対応、ケア」の3観点について、現在の学校の取組状況を以下の5段階評価で質問した。

5…十分できている 4…ある程度できている 3…どちらともいえない
2…あまりできていない 1…できていない（検討中、準備中）

中学校については、不登校生徒出現率が県平均以上の学校の平均値と、全国平均値未満の学校の平均値を比較し、小学校については、不登校児童数5人以上の学校の平均値と、不登校児童数0の学校の平均値を比較した。

2-① 不登校の未然防止（魅力ある学校づくり）に関する取組



<分析>

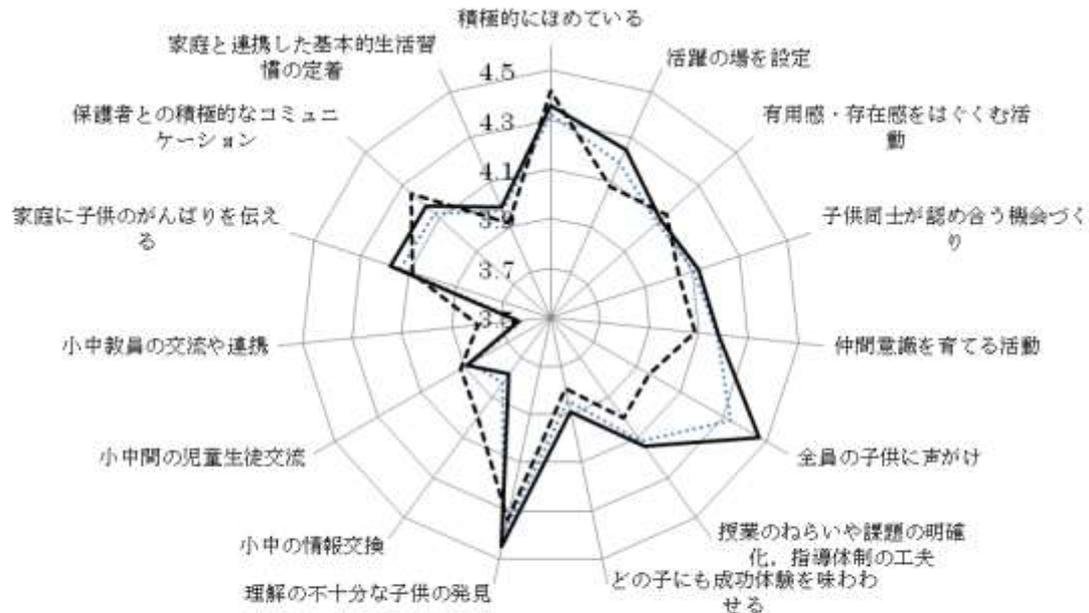
不登校生徒出現率が全国平均より低い中学校では、不登校生徒出現率が県平均より高い中学校に比べて、「活躍の場の設定」「自己有用感・自己存在感をはぐくむ活動の設定」「理解の不十分な生徒の発見」「保護者との積極的なコミュニケーション」「家庭と連携した基本的な生活習慣の定着」の項目のポイントが高いことが分かる。

魅力ある学校づくりについて（小学校）

..... 平均値（1.3人）

----- 不登校数5人以上の学校平均

—— 不登校数0の学校平均



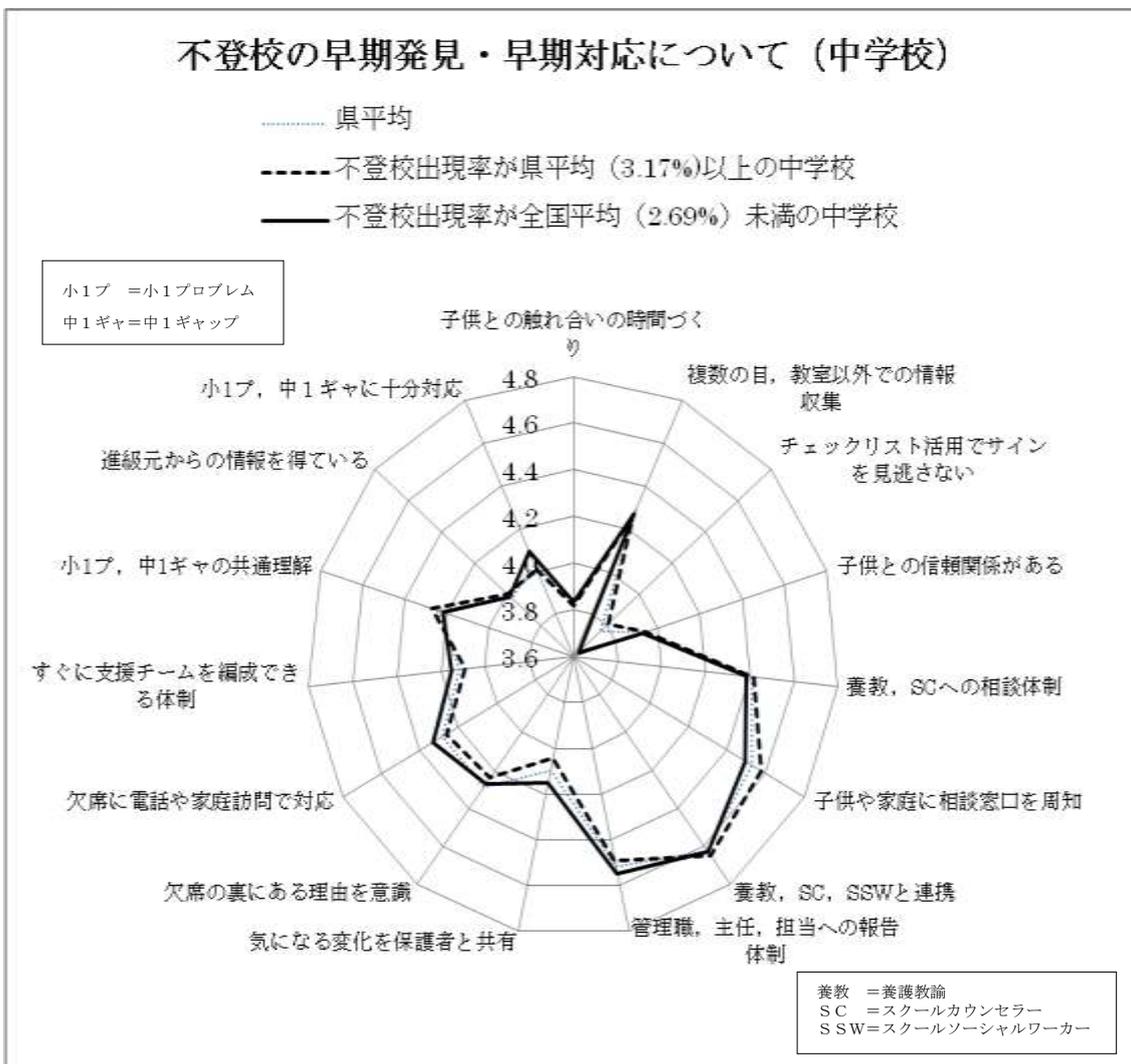
<分析>

不登校児童数が0の小学校では、不登校児童数が5人以上の小学校に比べて、「全員の子供に声がけ」「授業のねらいや課題の明確化、指導体制等の工夫」「活躍の場の設定」の項目のポイントが高いことが分かる。一方で、「小中の情報交換」や、「小中間の教員の交流や連携」については、不登校数が多い学校の方がポイントが高いことが分かる。

<魅力ある学校づくりに関する取組についての考察>

先生が、子ども、保護者とのかかわりを大切にして、分かる授業づくりと活躍の場づくりに努め、理解の不十分な児童生徒の発見に努めている学校ほど不登校を生みにくいことが見えてくる。これは、1-②の「不登校になったきっかけ」とも符合しており、「無気力」や「学業の不振」、「友人関係をめぐる問題」を生まない学校の取組が、不登校対策として有効であるといえる。

2-② 不登校の早期発見・早期対応について



<分析>

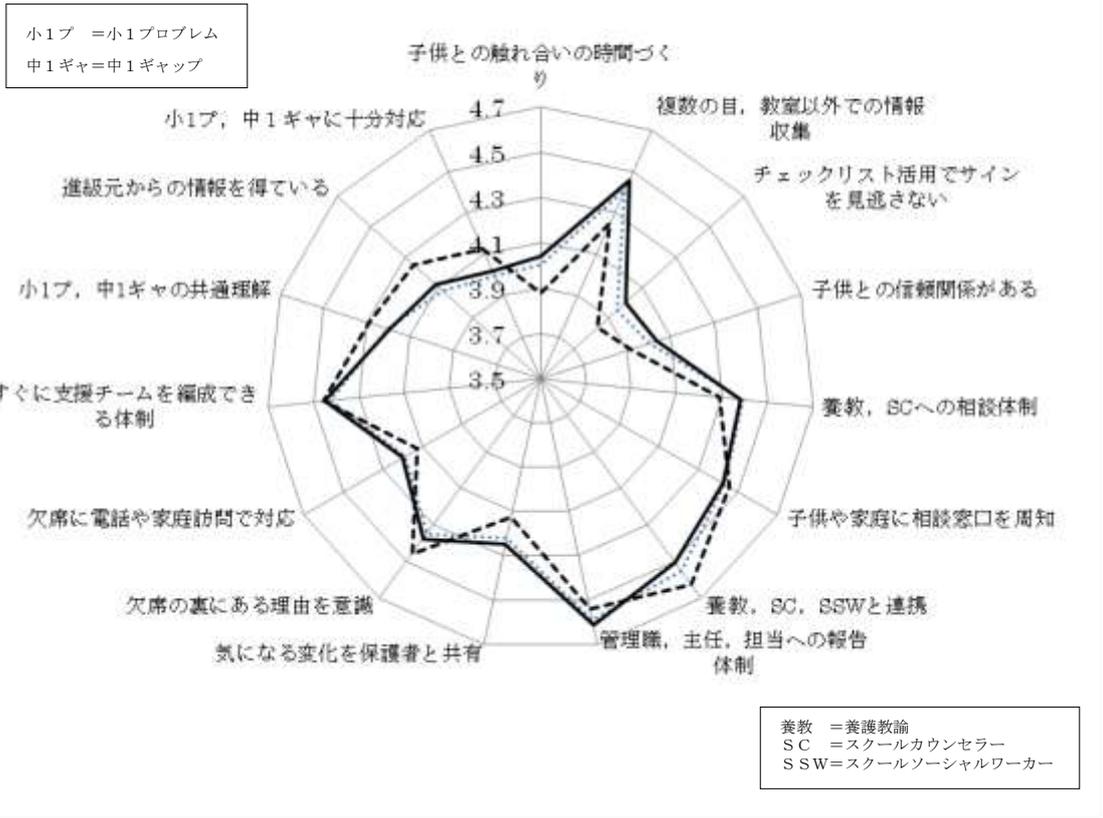
この観点については、不登校出現率が全国平均より低い中学校と、不登校出現率が県平均より高い中学校に有意な差は見られないが、「チェックリストを活用して不登校のサインを見逃さない」については、不登校出現率が高い学校の方がポイントが高い傾向が伺える。

不登校の早期発見・早期対応について（小学校）

..... 平均値（1.3人）

----- 不登校数5人以上の学校平均

—— 不登校数0の学校平均



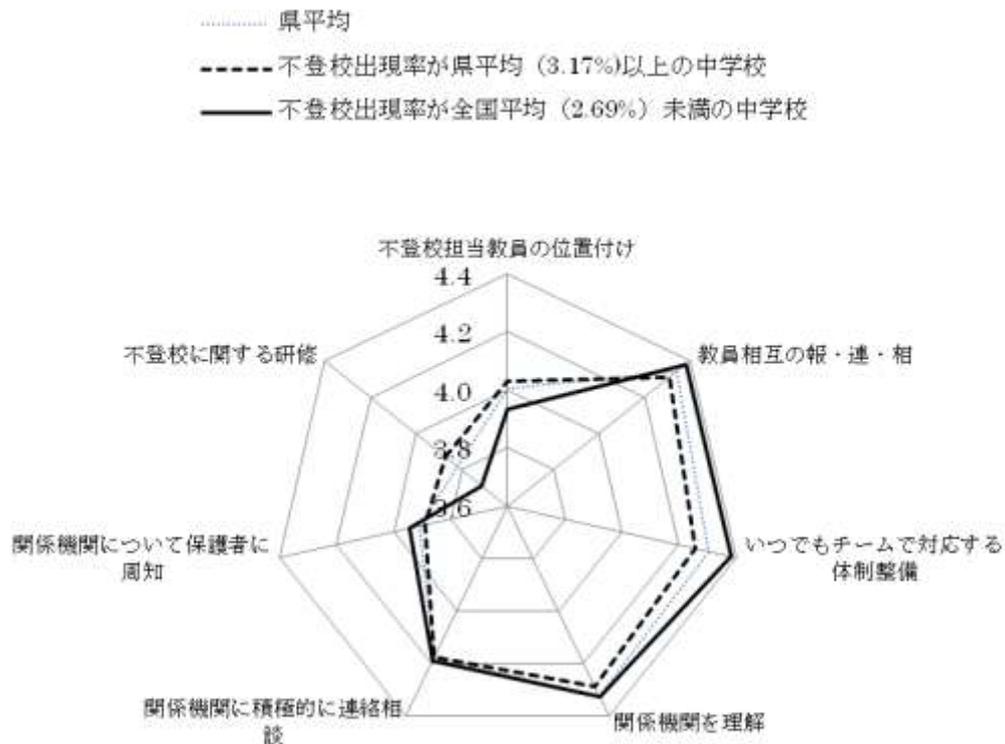
<分析>

不登校数が0の小学校では、不登校数が5人以上の小学校に比べて、「複数の目で、教室以外での情報収集」「チェックリストを活用して、不登校のサインを見逃さない」「子供との触れあいの時間づくり」の項目のポイントが高いことが分かる。

<早期発見・早期対応に関する取組についての考察>

中学校については有意な差が見られる項目はほとんどなかったが、小学校のデータからは、「複数の目で情報収集を行う」体制が整っていることが早期発見につながっていることが分かる。また、その一つの機会として「子どもとの触れ合いの時間づくり」が重要であることは明らかであり、担任が休憩時間や放課後の時間に子どもと過ごすことのできる環境があることが、不登校予防に有効であるといえる。チェックリストの活用については、不登校のない学校でも活用を促していくことで、予防効果が高まると考えられる。

不登校の事後の対応・ケアについて（中学校）



<分析>

不登校出現率が全国平均より低い中学校では、不登校出現率が県平均より高い中学校に比べて、「いつでもチームで対応する体制」が整備されていることが分かる。

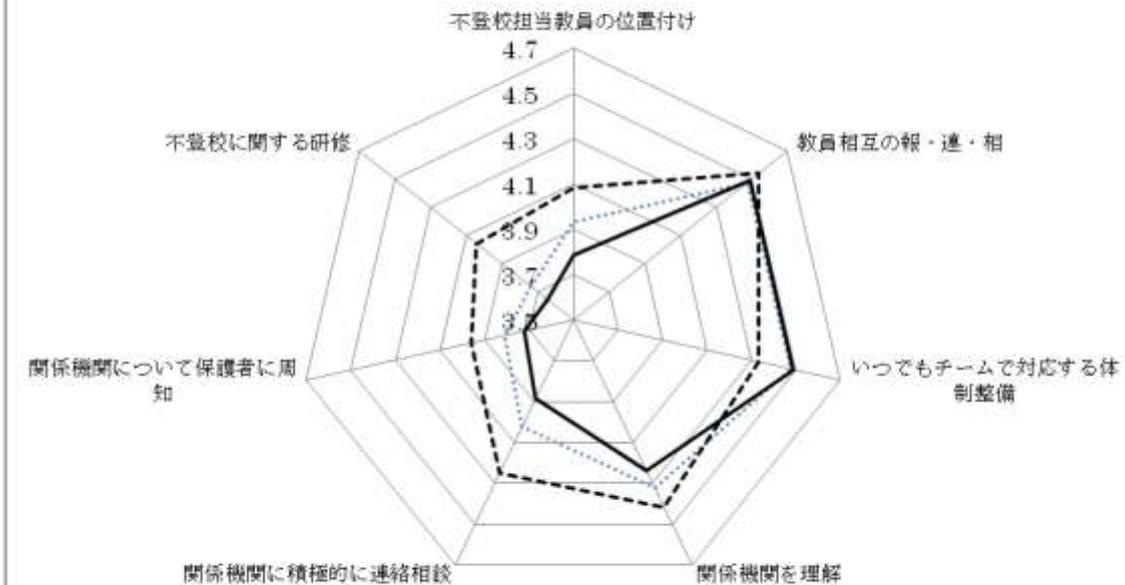
一方で「不登校に関する研修」は、不登校出現率の高い学校の方がよく取り組まれている。全体的に事後対応・ケアに関する取組については進んでいない項目が多い。

不登校の事後の対応・ケアについて（小学校）

..... 平均値（1.3人）

----- 不登校数5人以上の学校平均

—— 不登校数0の学校平均



<分析>

不登校数が0の小学校では、不登校数が5人以上の小学校に比べて、「いつでもチームで対応する体制」が整備されているが、その他の項目については、概ね不登校児童数の多い学校の方がポイントが高く、事後対応・ケアに関する項目については、不登校が起きてから取り組み始める学校が多いことが伺える。

<事後の対応・ケアに関する取組についての考察>

事後の対応、ケアについては、不登校児童生徒が少ない場合、必要性に迫られていないために割合が低いものと思われる。しかし、そのような状況にあるうちに不登校が起きたときにチームで対応する体制を整えておいたり、関係機関との連携について取り決めておいたりすることが早期対応につながることから、全ての学校において取り組んでいくことが望ましいと考えられる。関係機関との連携は、特に家庭での問題を解決していく上で重要であることから、各市町村におけるネットワークづくりや、情報の共有化について一層重視していくことが必要である。

宮城県特別支援教育将来構想審議会答申について

1 経緯

本県では、平成26年度までを計画期間とする「宮城県障害児教育将来構想」を平成17年に策定し、障害によって生じるさまざまな教育的ニーズに応じた教育環境の整備を進めてきた。

この間、我が国においては平成19年に学校教育法等の一部が改正され、また、特別支援教育についての県民の理解も進み、特別支援学校への入学を希望する児童生徒数が増加しているほか、発達障害など、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもたちに対する教育的ニーズも高まっている。

こうしたことから、これまでの取組や新たな課題も踏まえ、障害のある児童生徒に対する教育の一層の充実を図るため、昨年5月に「宮城県特別支援教育将来構想審議会」を設置し、本県の特別支援教育の将来を見据えた新たな構想の策定について諮問しており、平成26年12月25日に同審議会から答申がなされたので報告するもの。

2 これまでの主な審議経過

- 平成25年度は5月に県教育委員会から諮問し、6月の視察の他、5回の審議会を開催し、新構想の骨子や更なる在籍者数の増加を見据えた特別支援学校の在り方等について検討した。
- 平成26年3月に、県立知的障害特別支援学校の児童生徒数の増加等に対応した教育環境の整備については、他に先がけて緊急かつ最優先に対応すべき課題であるとの判断から「緊急提言」がなされた。
- 平成26年度は5月から2回の審議会を開催し、9月に中間案を公表しパブリックコメントを募集した後、寄せられた意見を踏まえ、更に2回の審議会を開催し答申をまとめた。

3 答申の概要（資料1及び別冊参照）

現宮城県障害児教育将来構想計画期間（平成17年度から平成26年度）における取組や課題を踏まえ、今後10年間の特別支援教育の方向性を示すもの

4 今後の予定

平成27年3月までに、県教育委員会において宮城県特別支援教育将来構想及び実施計画を策定

宮城県特別支援教育将来構想答申の概要

I 特別支援教育将来構想の策定について

本県においては、平成17年に「宮城県障害児教育将来構想」を策定し、インクルーシブ教育システムを先取りする形で障害のある子どもと障害のない子どもが「共に学ぶ」教育環境づくりや「生きる力」を培う教育を進め、一定の成果を挙げてきた。

一方、我が国においては平成19年に学校教育法等の一部が改正され、また、この10年間で、特別支援教育についての県民の理解も進み、特別支援学校への入学を希望する児童生徒数が増加しているほか、発達障害など、小・中、高等学校等に在籍する特別な支援を必要とする子どもたちに対する教育的ニーズが高まっている。

こうしたことから、インクルーシブ教育システムの構築という世界の流れと、本県におけるこれまでの取組や新たな課題も踏まえ、共生社会の中で、障害の有無によらず、全ての児童生徒の心豊かな生活を目指し、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育に向けた「特別支援教育将来構想」の策定が求められている。

II 現構想における取組の成果と課題

III 各学校の現状

1 小・中学校

特別な支援を必要とする児童生徒数の増加、特別支援教育の校内体制整備、教員の専門性、個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用

2 特別支援学校

知的障害特別支援学校の狭隘化、知的障害以外の特別支援学校、進路指導の充実、教員の専門性、軽い知的障害のある生徒への対応、居住地校学習、センター的機能、適切な就学支援

3 高等学校

特別な支援を必要とする生徒への対応、特別支援教育の校内体制

IV 特別支援教育将来構想の基本的な考え方

障害の有無によらず、全ての児童生徒の心豊かな生活と共生社会の実現を目指し、柔軟で連続性のある多様な学びの場の中で、一人一人の様々な教育的ニーズに応じた適切な教育を展開することが求められる。

V 今後の特別支援教育の進め方

目標1【自立と社会参加】

障害のある児童生徒が夢や希望を抱きながら、心豊かな生活を実現するための一貫した指導・支援体制の整備

- 1 乳幼児期（早期）からの支援体制の充実
- 2 卒業後の心豊かな生活への円滑な移行を支援する体制の充実
- 3 将来の自立と社会参加を目指した進路学習の充実

目標2【学校づくり】

障害のある児童生徒の多様な教育的ニーズに的確に対応した体制・環境の整備

- 1 多様な教育的ニーズに応じた学びの場の実現
- 2 学習の質を高めるための教員の専門性向上
- 3 学習の質・効果を高めるための環境整備

目標3【地域づくり】

生活の基盤となる地域社会への参加を推進するための環境整備と共生社会の実現に向けた関係者の理解促進

- 1 共生社会の実現を目指した理解促進
- 2 市町村教育委員会への支援充実

VI 特別支援教育将来構想の施策体系

VII 資料編

平成２６年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

1 目 的	生徒の学力状況及び学習状況等について調査し、各学校における学習指導及び進路指導等の改善に役立てる。
2 調査対象	公立(県立, 仙台市立, 石巻市立)高校 1 年生約15,100人, 2 年生約14,900人
3 実施期間	平成 26 年 7 月 3 日 (木) ~ 7 月 11 日 (金)
4 調査内容	○学力状況に関する調査: 2 学年 ・国語, 数学, 英語の 3 教科: A 問題 (基本), B 問題 (応用) を選択 ○学習状況, 震災後の心身の健康及び「志教育」等に関する調査: 1, 2 学年

※ () 内は前年度の正答率

5 学力状況に関する調査結果の概要 (2 学年)		別冊 P 2 ~ 3	共通問題正答率
国語	○基礎・基本は定着, 文章の展開を的確に把握する力に課題 ・基本問題, 応用問題とも前年度との比較では正答率が伸びており, 1 年次既習事項の定着が見られる。		55.4 (47.3)
数学	○基本的な知識・技能は定着, 公式や定理を活用する力に課題 ・正答率は, 低下。また, A 問題選択者 (基礎・基本) と B 問題選択 (発展・応用) 者間の正答率の開きが大きくなっている。		46.5 (47.7)
英語	○基本的な表現は身に付いているが, 長文の要点や概要を把握する力に課題 ・基本問題の正答率は, 前年度との比較で低下している。家庭学習も含めた指導の改善が必要。		46.7 (47.0)

6 学習状況等に関する調査結果の概要 (1 学年・2 学年)		別冊 P 4 ~ 16
学 習	○ 大学や短大への進学希望は, 震災前の水準に回復。進路未定者は, 1 年時から半減。 ○ 授業が概ね理解できる生徒の割合は増加, 2 年時の家庭での学習時間は減少。 ○ 家庭学習の悩みは「集中できない」が最も多く, 長続きしないと合わせると約半数。 ○ 平日 2 ~ 3 時間の家庭学習時間を確保すること, 宿題や小テストの頻度を上げることが, 学習内容の定着につながっている。	
生 活	○ 学校生活については, 充実感や満足感を感じる生徒の割合は 8 割。 ○ 生活習慣・体調管理・食生活については, 食欲もあり体調もよいと回答している生徒の割合は 7 割 ~ 9 割と高く概ね良好。 ○ 携帯電話等を平日に 2 時間以上使用している生徒は約半数, 「勉強しながら」「テレビを見ながら」「食事をしながら」といった, 「～しながら」の利用が多く, 学習習慣や睡眠・生活習慣への影響が懸念される。	
志 教 育	○ 人が困っている時は進んで助けようとする生徒, 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合は 8 ~ 9 割。 ○ 自分の適性が分かっている生徒, 働くことの意義を理解している生徒, 自分の役割に責任を持って行動している生徒は, 7 ~ 8 割, いずれも昨年度より増加。	
入 試	○ 入試は, 学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っていると 6 割から 7 割の生徒が回答。 ○ 入試は, 将来について考える機会になったと 7 割から 8 割の生徒が回答。 ○ 入試は, 学校生活の充実につながっていると, およそ 6 割の生徒が回答。	

7 学力向上に向けた今後の取組	別冊 P 17	
○「分かる授業」の実践	○家庭学習時間の確保	○「志教育」の推進
○生活習慣の改善	○家庭と学校との連携	○自己教育力を高める取組

平成26年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査 **概要**

I	調査の概要	P. 1
II	調査結果の概要と分析	P. 2
	1 学力状況に関する調査	
	2 学習状況に関する調査	
	3 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査	
III	学力向上に向けた今後の取組	P.17

平成27年1月

宮城県教育委員会

I 調査の概要

1. 学力状況に関する調査

- (1) 目的 生徒の学力状況を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 78校
2年生 約14,900人
- (3) 実施期間 平成26年7月3日（木）から7月11日（金）までの間、各学校で実施
（仙台市立は平成23年度より実施）
- (4) 実施内容
- ① 実施教科
- ・国語、数学、英語の3教科
 - ・高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し、平均正答率を50%と設定
 - ・各教科、共通問題に加え学校選択問題を設定
※学校選択型A問題（A問題）は知識・理解等を問う基礎的・基本的な内容の設問
※学校選択型B問題（B問題）は思考力・表現力等を問う発展・応用的な内容の設問
- ② 実施人数
- ・国語 14,307人（A問題選択58校7,060人、B問題選択30校7,247人）
 - ・数学 14,316人（A問題選択63校8,129人、B問題選択25校6,187人）
 - ・英語 14,307人（A問題選択62校7,940人、B問題選択26校6,367人）
- ※学校数は全日制本校73校、定時制11校、分校・分校舎4校の計88校として集計

2. 学習状況等に関する調査

- (1) 目的 生徒の学習状況等を把握し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 調査対象 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校 計78校
1年生 約15,100人、2年生 約14,900人
- (3) 実施期間 平成26年7月3日（木）から7月11日（金）までの間、各学校で実施
（仙台市立は平成23年度より実施）
- (4) 実施内容
- ① 調査内容 生徒の学習・生活状況、震災後の心身の健康状況及び「志教育」等に係る質問紙調査
- ② 実施人数
- | | | | |
|-----|---------|------|-------|
| 1年生 | 14,527人 | （回収率 | 96.2% |
| 2年生 | 14,383人 | （回収率 | 96.6% |

Ⅱ 調査結果の概要と分析

1 学力状況に関する調査

(1) 概況

国語

共通問題の正答率は、55.4%（前年度47.3%）

○ 基礎的・基本的な知識は身に付いているが、文章の展開に沿って的確に把握していく力に課題

- ・ 基本的な漢字の読み書き、古典の基礎的・基本的な知識は定着している。
- ・ 現代文では、展開を踏まえて要旨や心情の変化を把握する力、古典では、登場人物の状況・行動・心情などを細やかに読み取る力に課題がある。

数学

共通問題の正答率は、46.5%（前年度47.7%）

○ 基礎的な知識・技能の定着は見られるが、問題解決に必要な公式や定理を選択して活用する力に課題

- ・ 分母の有理化、命題の真偽判定や二次方程式等については、一定の定着が見られる。
- ・ 問題文から必要な条件を読み取り、適切な公式や定理を選択し活用する力に課題が見られる。

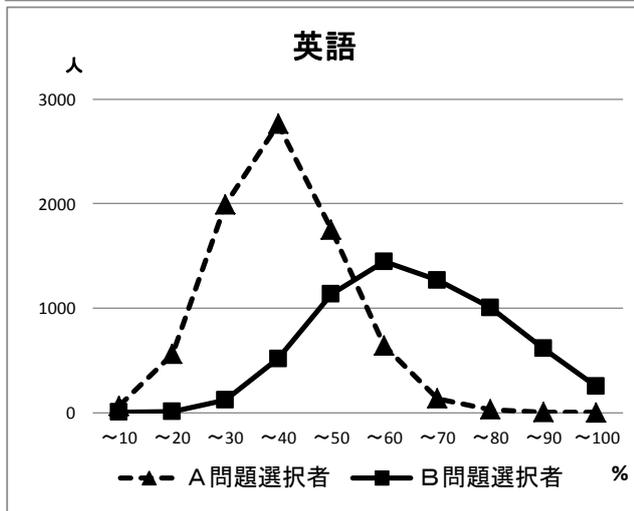
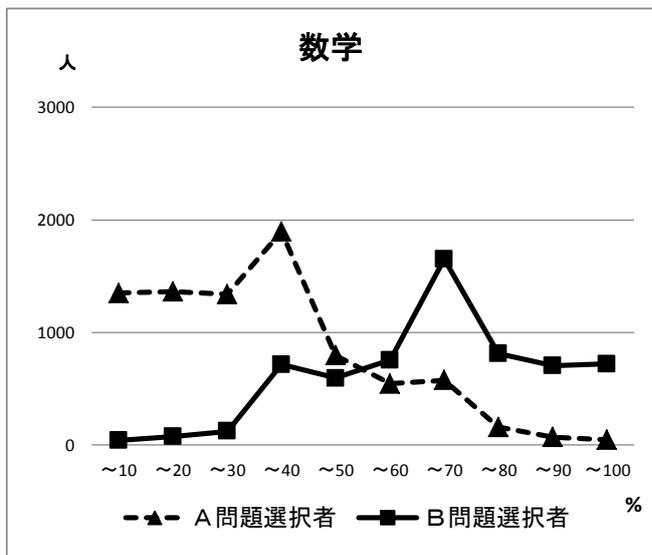
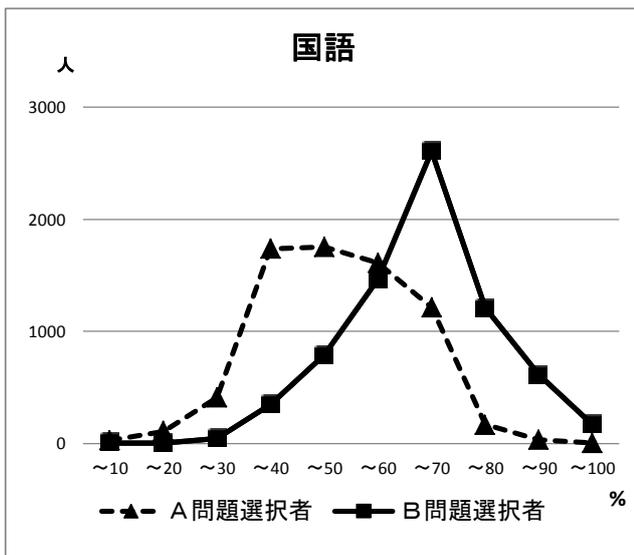
英語

共通問題の正答率は、46.7%（前年度47.0%）

○ 基本的な英語表現は身に付いているが、長文の要点や概要を把握する力に課題

- ・ 普段の言語活動でよく使用される英語表現については、定着が見られる。
- ・ 内容全体にわたって問われたものや、異なる表現で言い表されたものを理解することに関しては、力が不足している。

図1-1 正答率度数分布



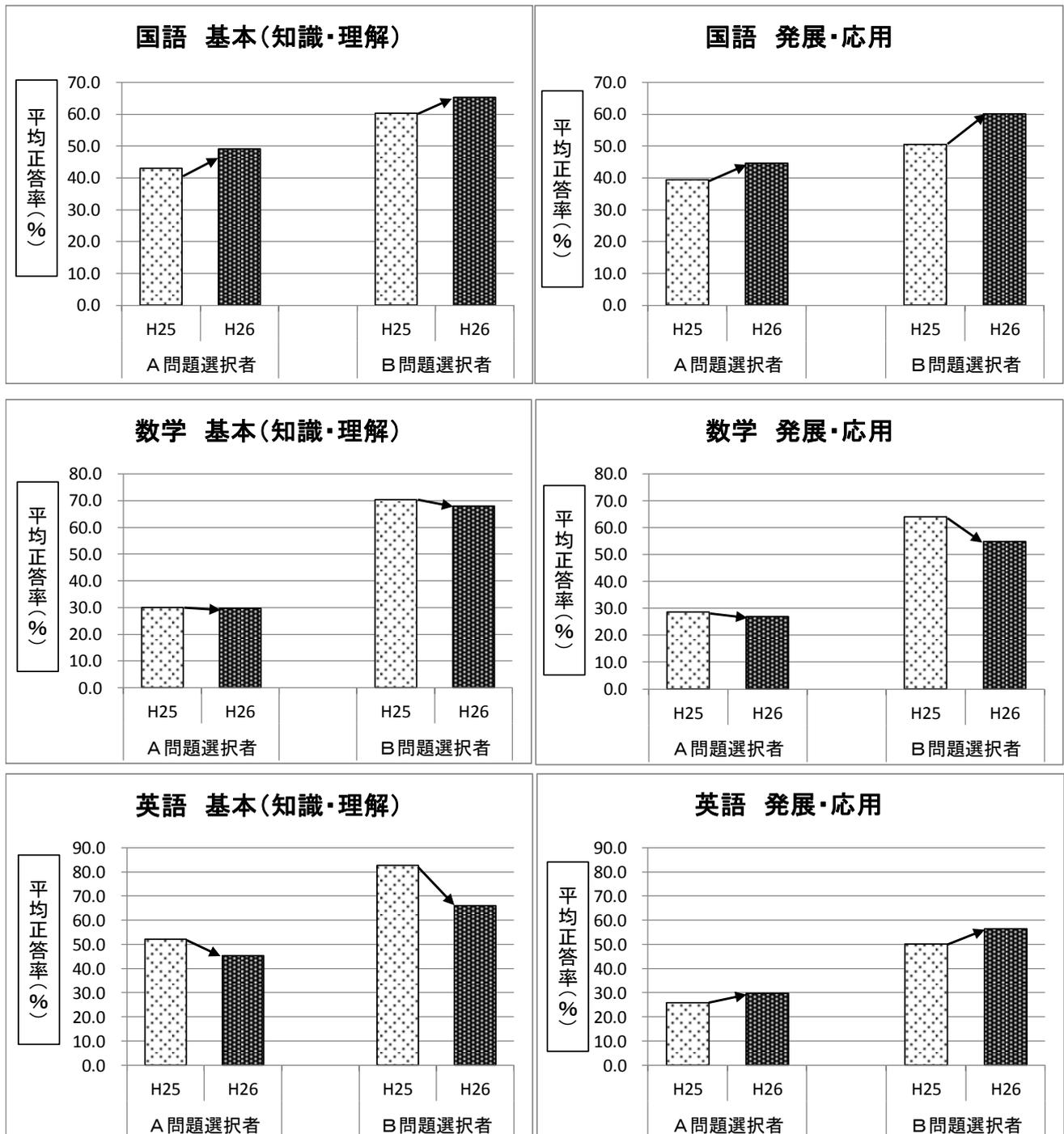
※A問題：知識・理解等を問う基礎的・基本的な内容

※B問題：思考力・表現力等を問う発展・応用的な内容

(2) 概況(A, B問題選択者別)

- 国語** A問題選択者：共通問題の正答率は、47.4%（前年度40.5%）
 B問題選択者：共通問題の正答率は、63.3%（前年度53.9%）
 ○ 基本問題、応用問題とも前年度との比較では正答率が伸びており、1年次既習事項の定着が見られる。
- 数学** A問題選択者：共通問題の正答率は、32.3%（前年度31.6%）
 B問題選択者：共通問題の正答率は、63.9%（前年度67.7%）
 ○ 正答率は、低下。また、A問題選択者とB問題選択者間の正答率の開きが大きい。
- 英語** A問題選択者：共通問題の正答率は、35.8%（前年度35.2%）
 B問題選択者：共通問題の正答率は、60.2%（前年度61.8%）
 ○ 基本問題の正答率は、前年度との比較で低下。家庭学習も含めた指導の改善が必要。

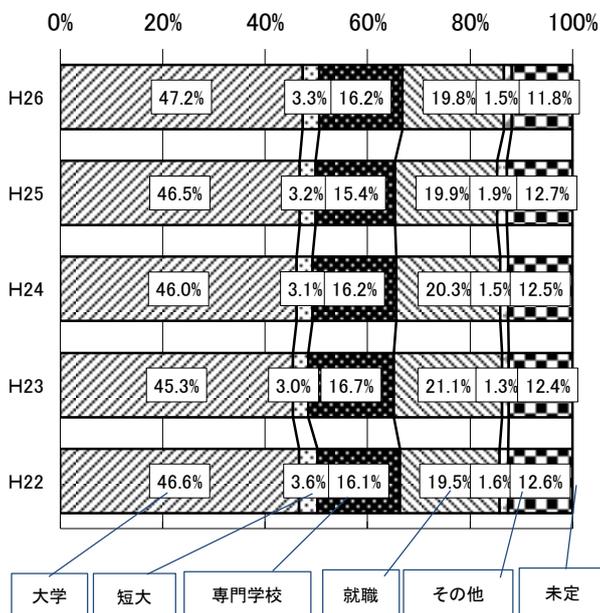
図1-2 A・B問題選択者別一観点別 正答率



2 学習状況に関する調査

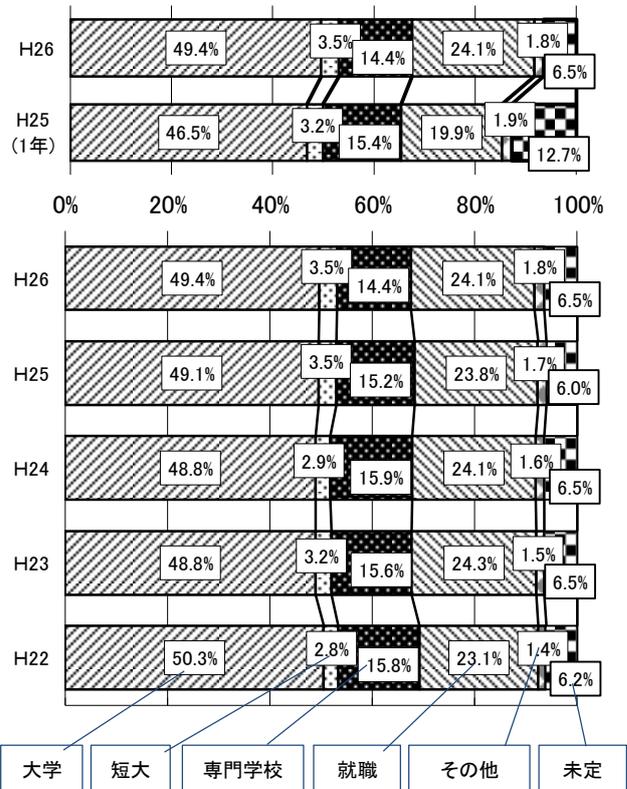
(1) 高校卒業後の進路希望【Q1】

図1 進路希望（1年生）



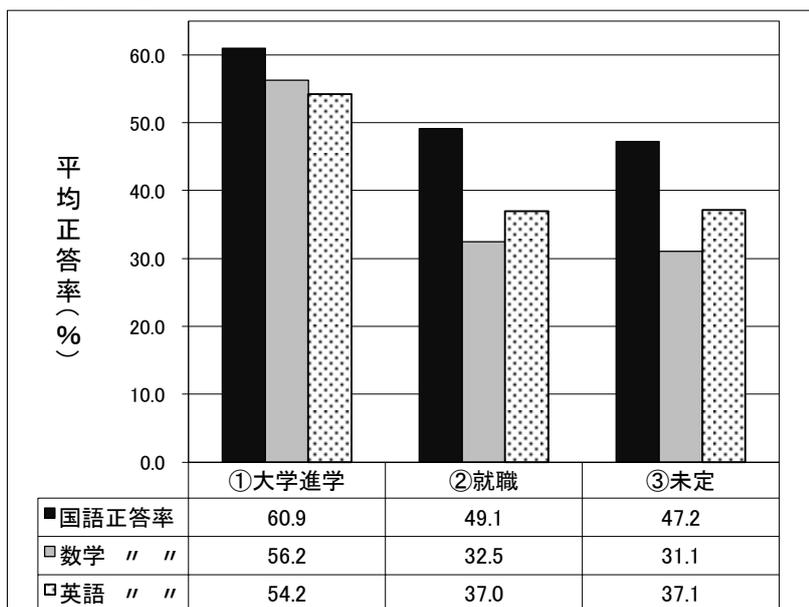
- ○ 大学や短大への進学志望者は、震災前の水準を上回った。
○ 進路未定者は減少。

図2 進路希望（2年生）



- ○ 大学や短大への進学志望者は震災前の水準に回復。
○ 進路未決定者は1年時から半減。

図3 進路希望別正答率



- ① 大学進学
国公立の四年生大学への進学を希望している生徒
② 就職
民間及び公務員への就職を希望している生徒
③ 未定

◎ 大学への進学志望者の各教科の正答率は50%を超えているが、その他の進路希望では数学と英語で50%に届かず、数学、英語では40%を割り込む。

(2) 授業理解度【Q4】，家庭学習のしかた

図4 授業理解度（1年生）

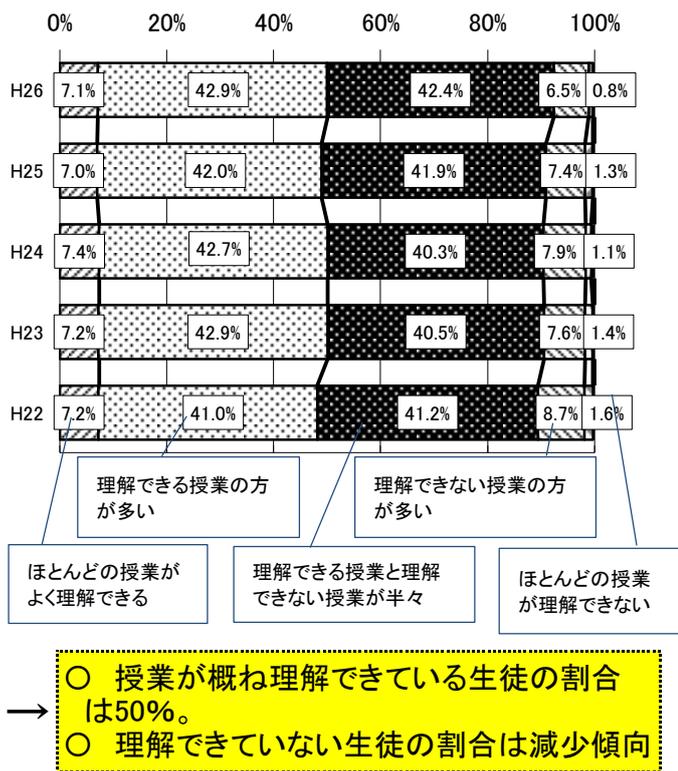


図5 授業理解度（2年生）

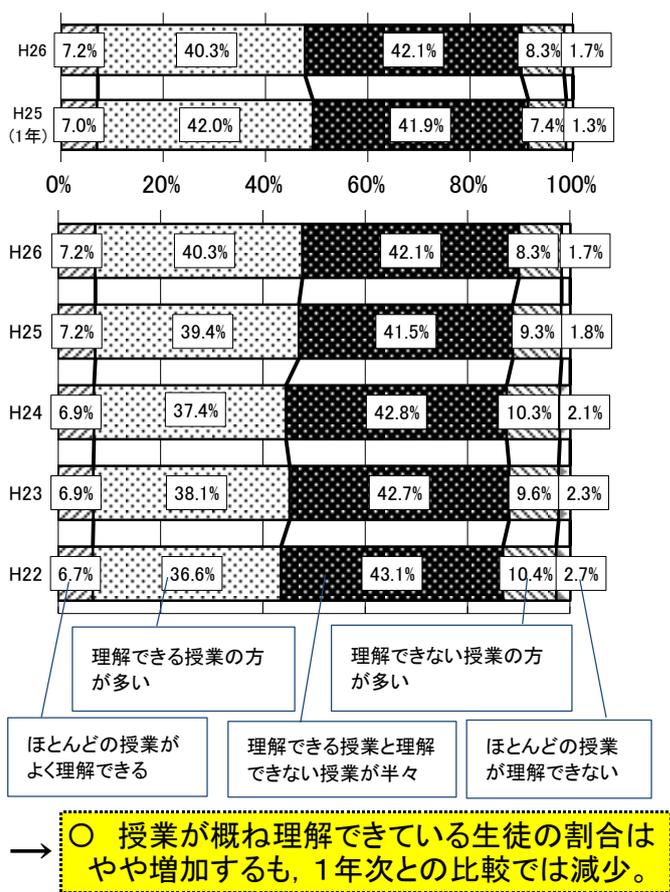


図6 家庭学習のしかた（1年生）

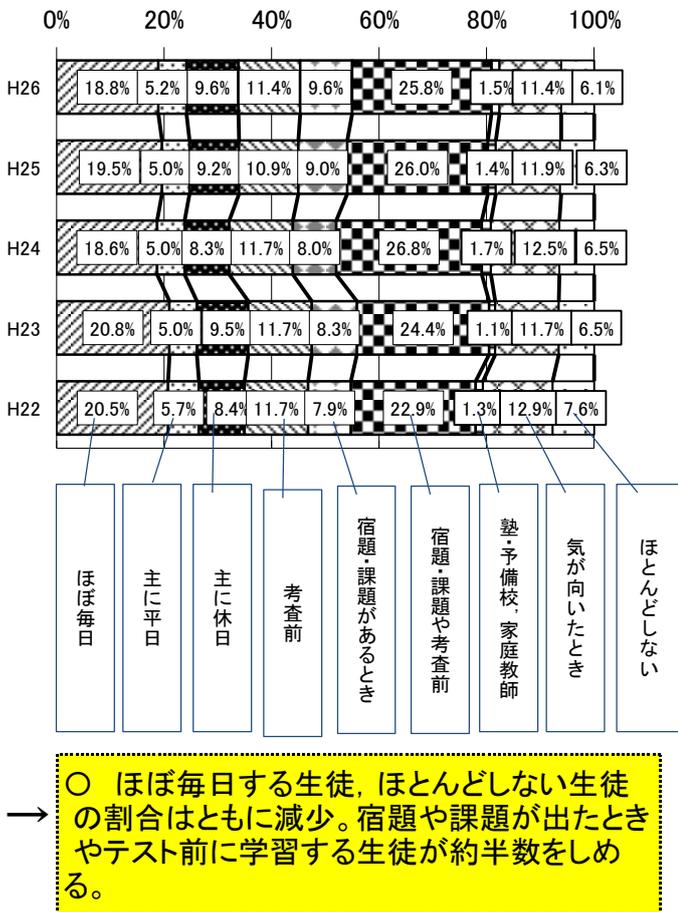
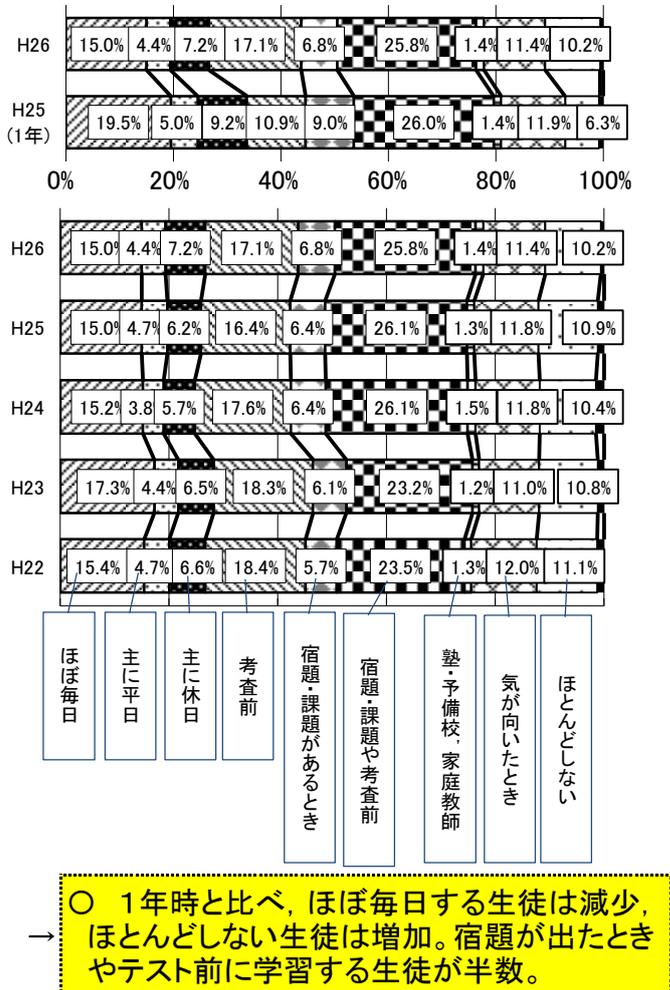
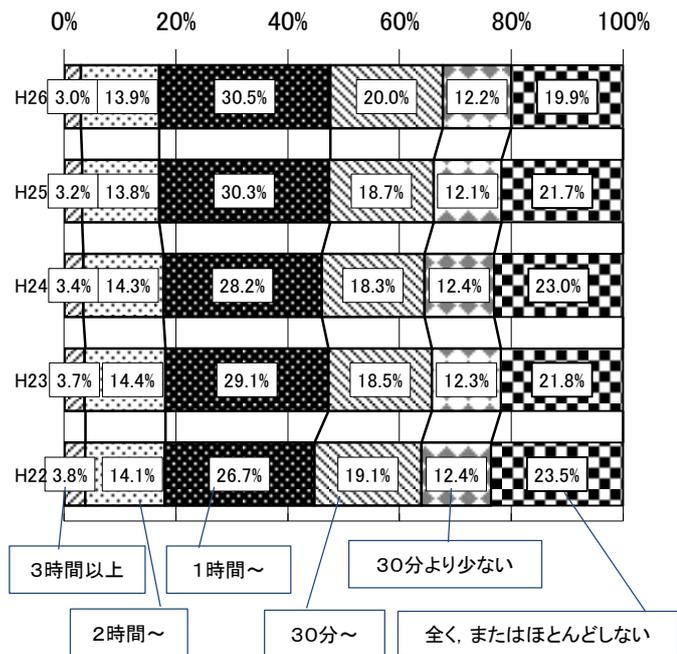


図7 家庭学習のしかた（2年生）



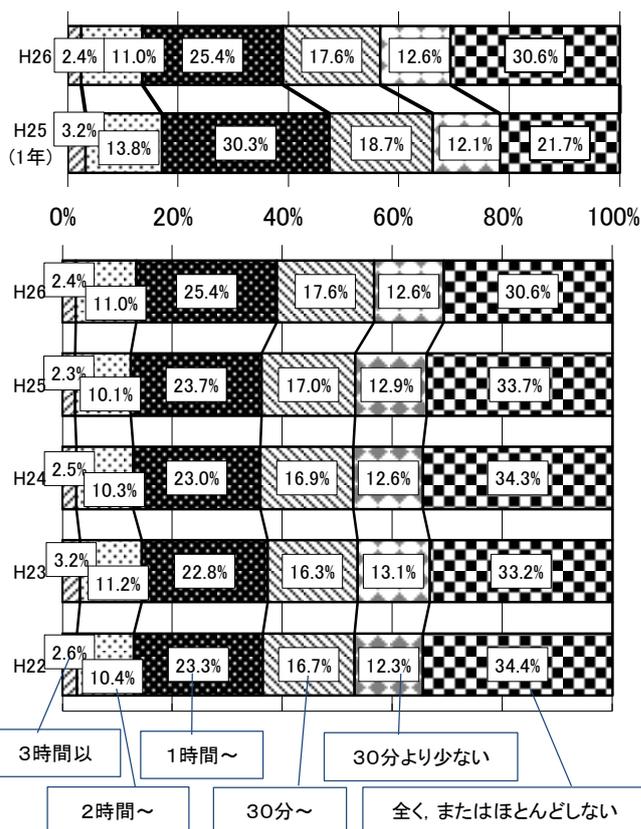
(3) 平日の学習時間(【Q10】)

図8 平日の家庭学習時間(1年生)



- 「全く、またはほとんどしない」割合は減少
- 「2時間以上」の割合も減少傾向にある。

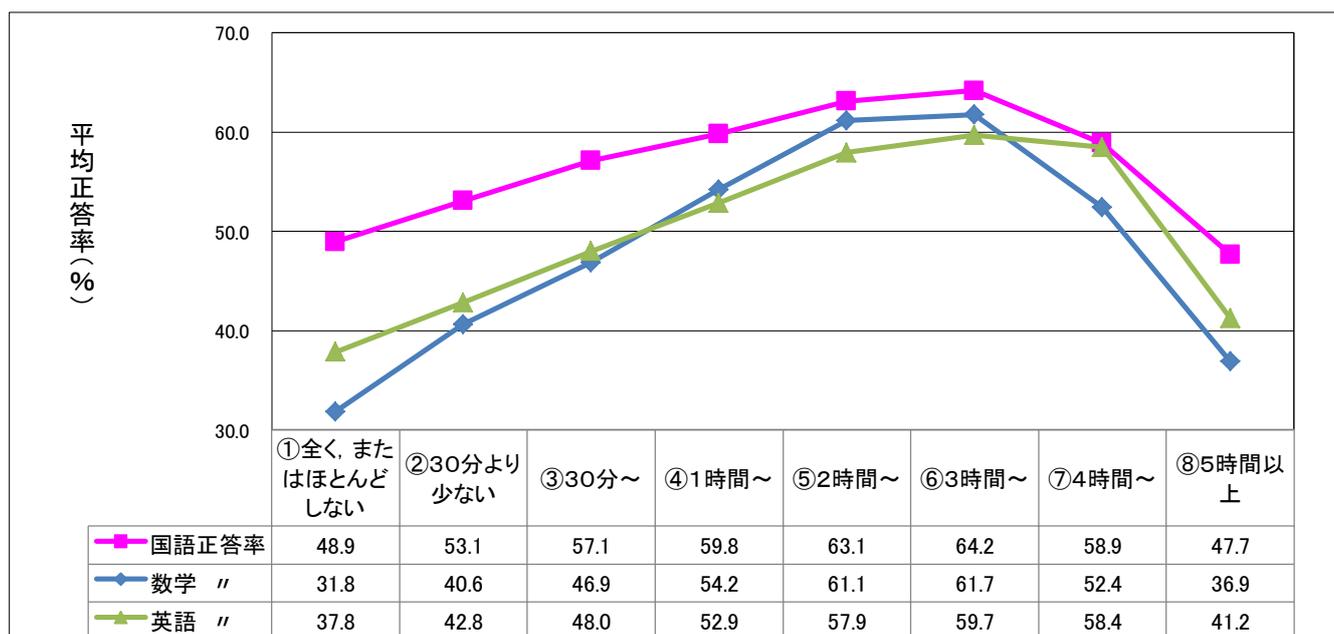
図9 平日の家庭学習時間(2年生)



- 一時間以上勉強する割合は増加
- 全く、またはほとんどしない割合は減少
- 1年時に比べ学習時間は大幅に減少

図10 家庭学習時間と正答率

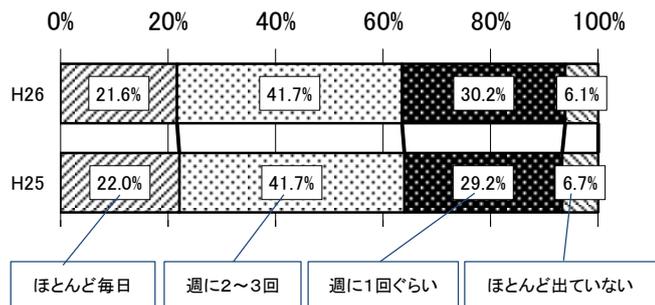
→【Q10】 平日に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか



- ◎ 平日2~3時間の家庭学習時間を確保し、集中して学習に取り組むことが内容の定着に効果的であることがわかる。

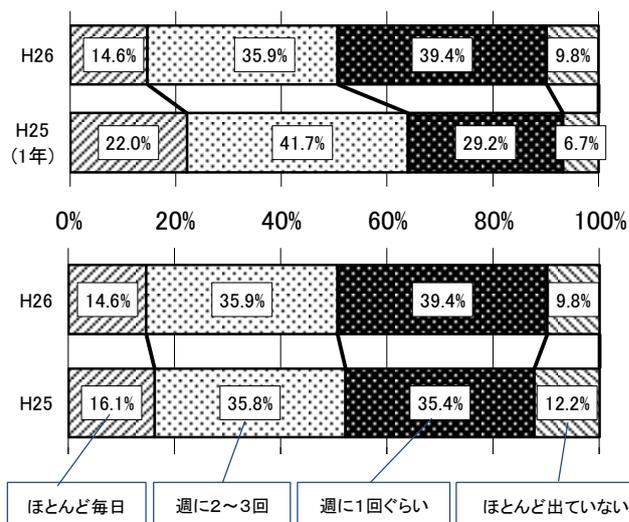
(4) 宿題・課題の頻度(【Q7】、【Q8】)

図11 宿題・課題が課される頻度(1年生)



→ ○ 「ほとんど出ていない」は、減少。

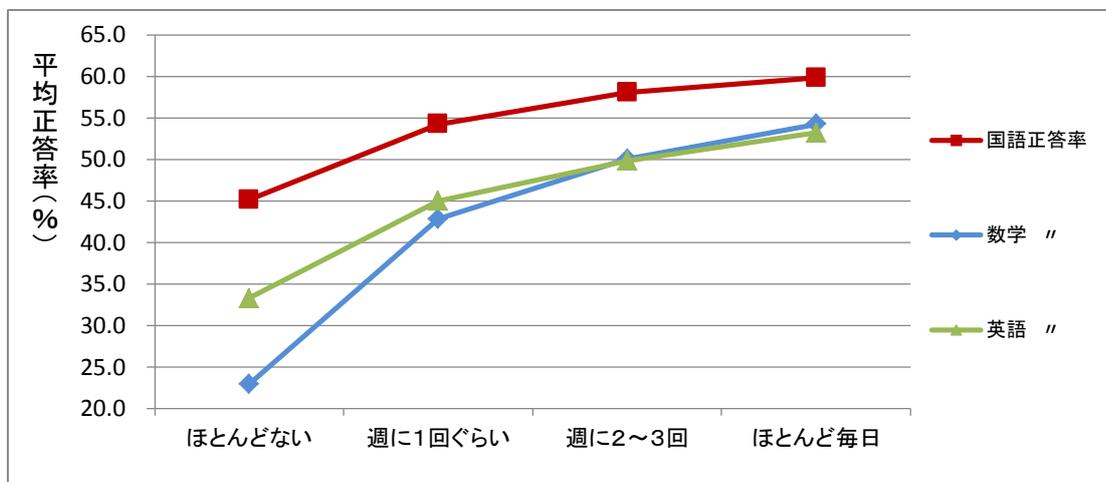
図12 宿題・課題が課される頻度(2年生)



→ ○ 「ほとんど出ていない」は、減少。

図13 宿題・課題の頻度と正答率

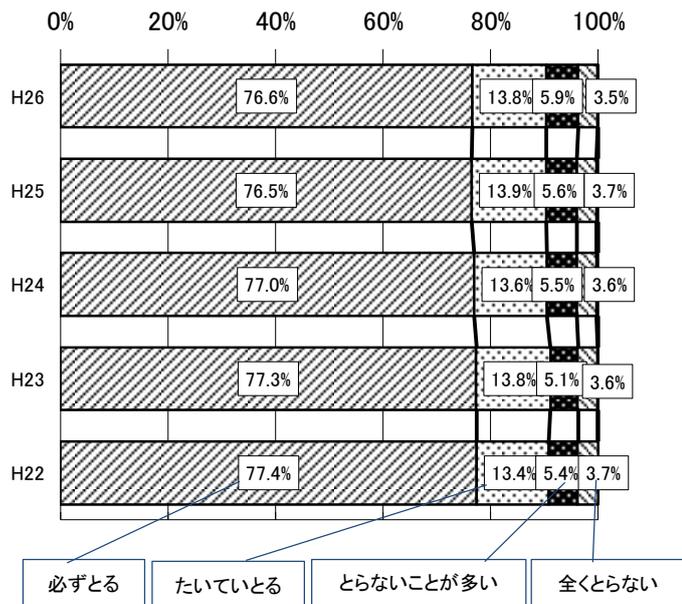
→ 【Q7】 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか



- ◎ 宿題や課題を定期的に課し取り組むことが、学習内容や学習習慣の定着につながっている。
- ◎ また、定期的に、小テストや確認テストを実施することも同様の効果が期待できる。

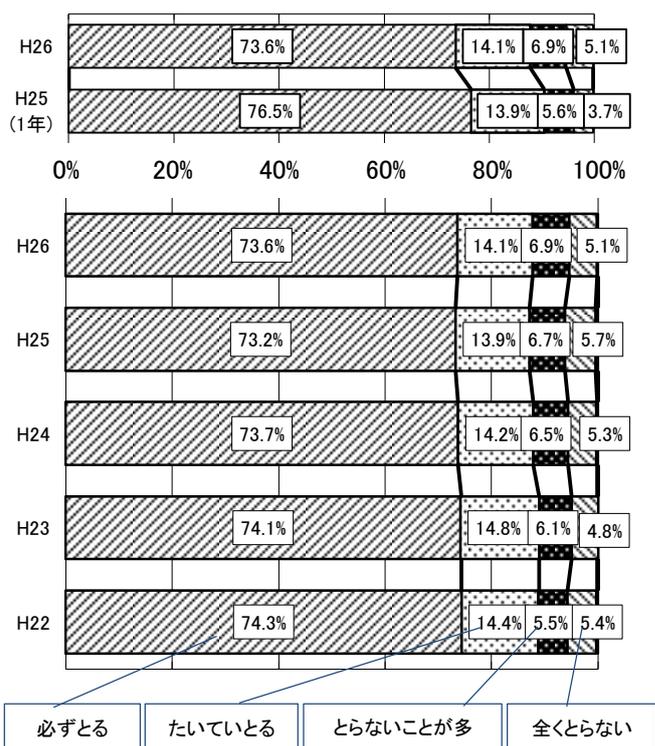
(5) 朝食摂取の習慣(【Q15】)

図14 朝食摂取習慣(1年生)



→ ○「必ずとる」または「たいていとる」生徒の割合は、9割
○「全くとらない」生徒の割合は減少。

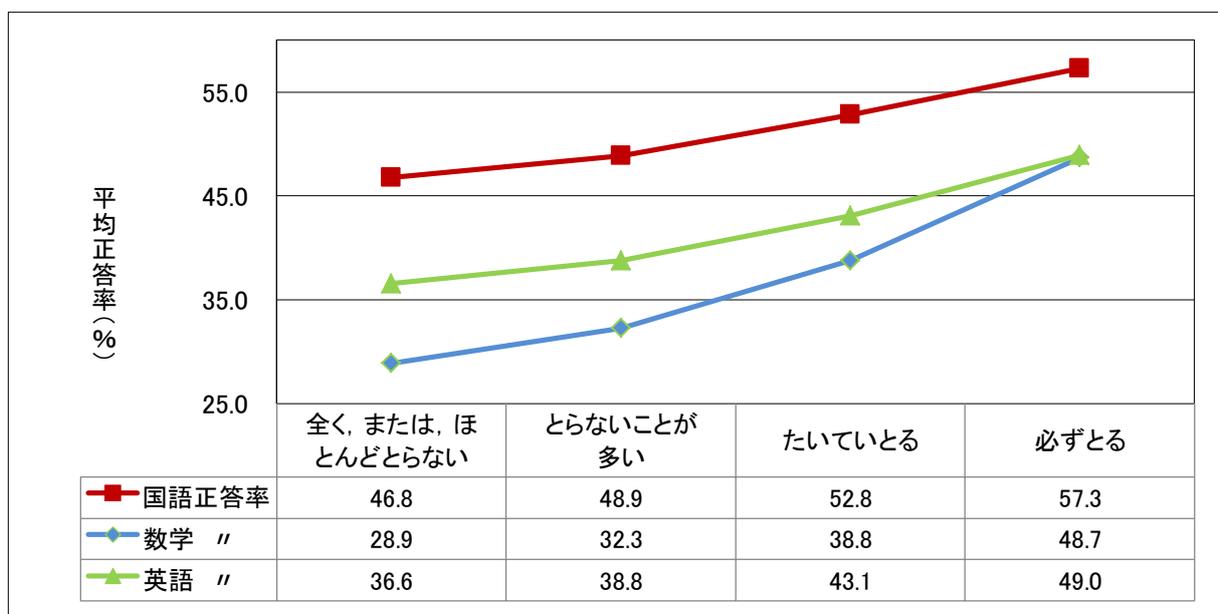
図15 朝食摂取習慣(2年生)



→ ○朝食をきちんと食べる生徒が1年時から減少
○朝食摂取習慣と学習成果の関係にも注意

図16 朝食摂取の習慣と正答率

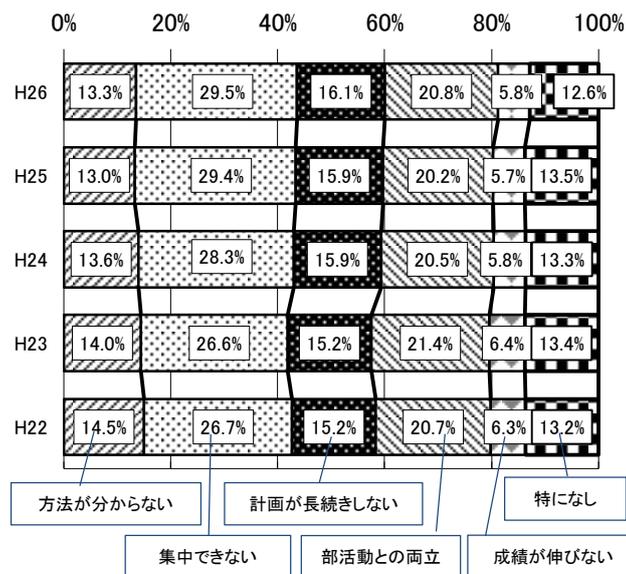
【Q15】 学校に行く前に朝食をとりますか



→ ※ 朝食と脳活動の関係 ~ご飯とおかずバランスよく~
・脳が働くために「ご飯」が必要
・脳(細胞)が成長するために「おかず」が必要

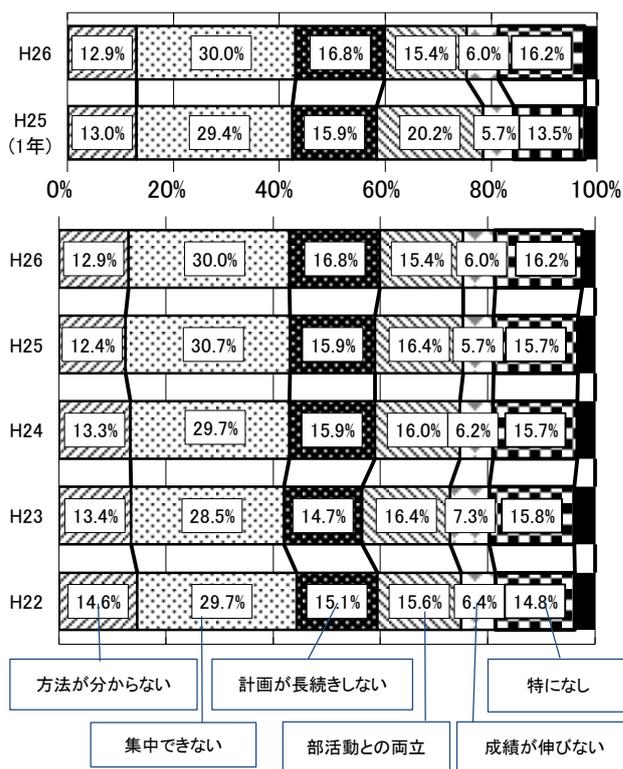
(6) 家庭学習をする上での悩みと平日の生活(【Q14】、【Q16】)

図17 家庭学習をする上での悩み(1年生)



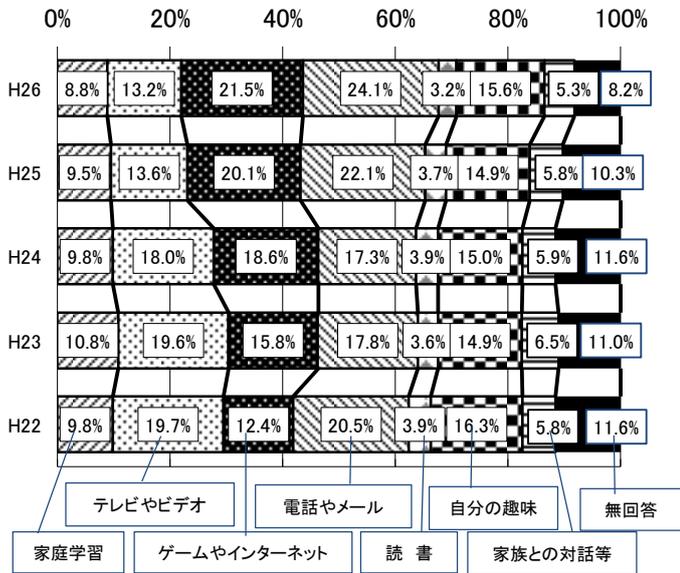
→ 「集中できない」が最も多く、「長続きしない」と併せると約半数に迫る。

図18 家庭学習をする上での悩み(2年生)



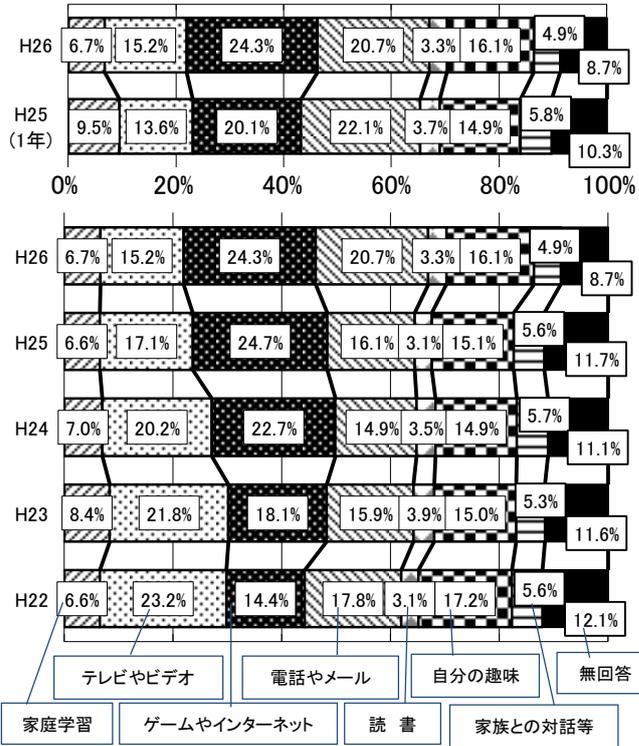
→ 「集中できない」、「長続きしない」が、前年比、1年時比とも、さらに増加。

図19 平日に最も時間をかけていること(1年生)



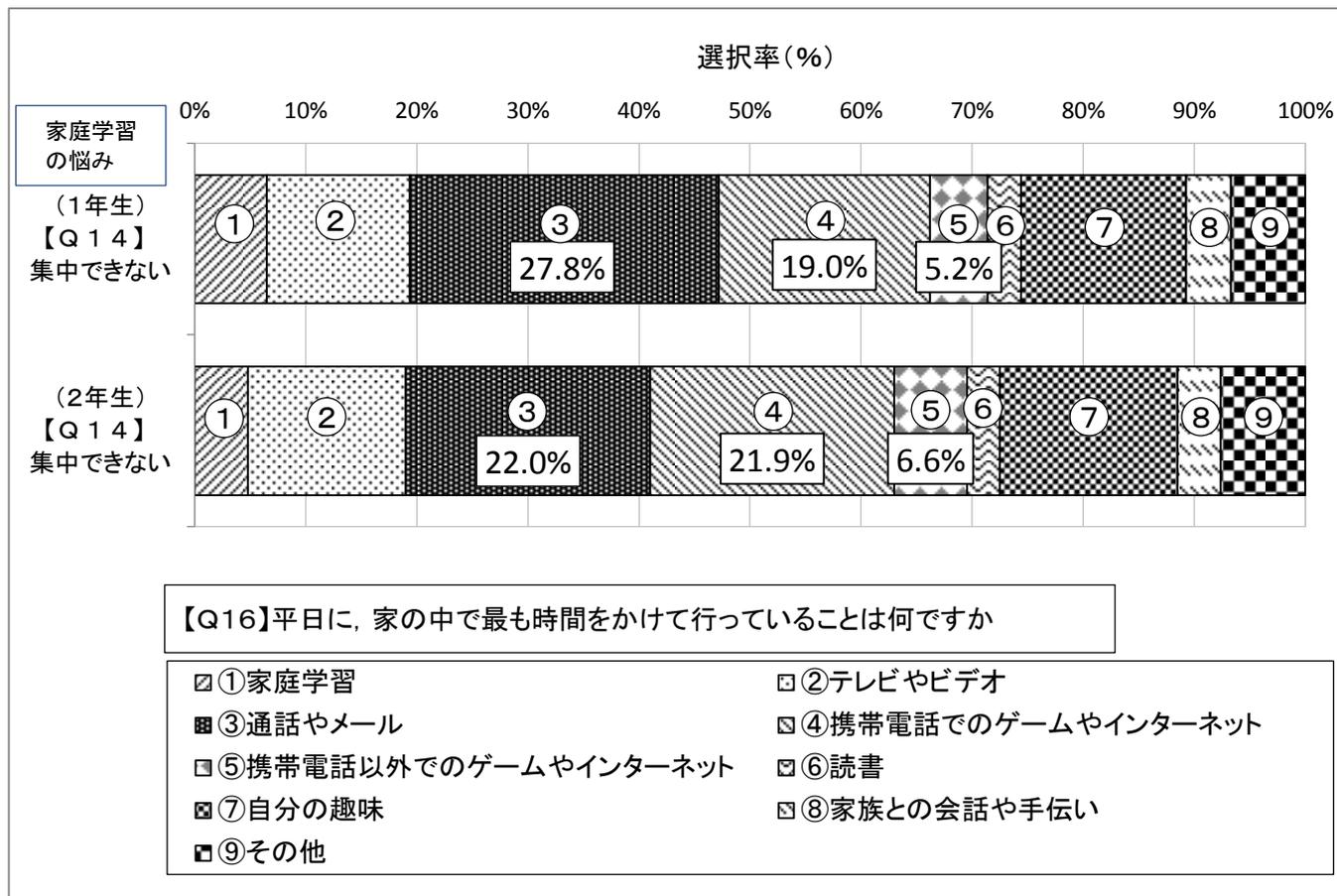
→ 「ゲームやインターネット」、「電話やメール」が急増。

図20 平日に最も時間をかけていること(2年生)



→ 「電話やメール」、「ゲームやインターネット」を合わせた割合は、前年比、1年次比とも増加。
○ 依存的傾向が懸念される。

図21 悩みが「集中できない」生徒の、平日の生活状況(【Q14】、【Q16】)



→ ネット依存的な傾向が、家庭生活や学習活動に影響

◎ 1年生, 2年生とも, 家庭学習をする上での悩みとして, 「集中できない」と回答した生徒の割合は約30%, 「長続きしない」と合わせると約半数。

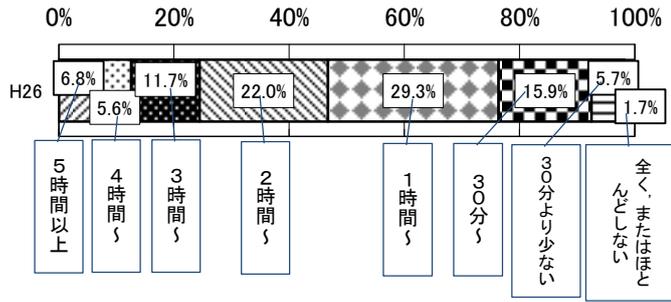
◎ そのうち, 平日に, 家庭で最も時間をかけていることが, 携帯電話やスマートフォンでの通話やメール, ゲームやインターネットであると回答した生徒が約半数を占める。

◎ ネット依存的な傾向が, 家庭生活や学習活動に影響を及ぼしており, 家庭とも連携した対策が必要。

※関連→P13, 14

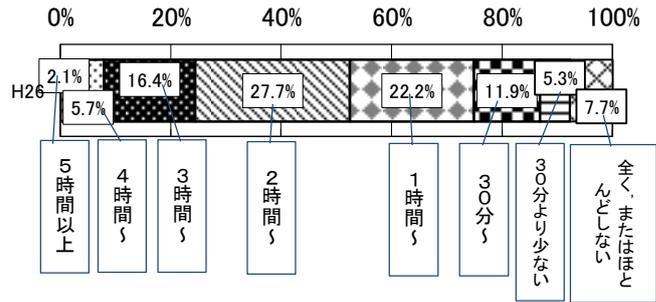
(7) 携帯電話等の使用時間と使用する場面(【Q17】、【Q29】)

図22 平日の使用時間(1年生)



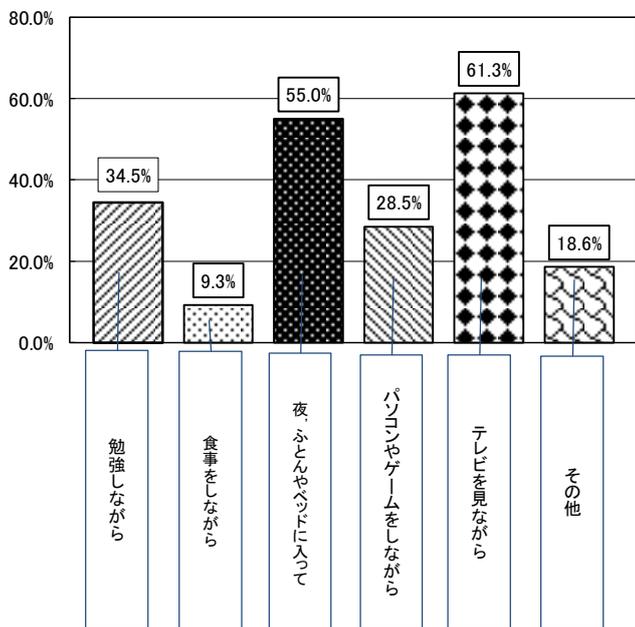
- 約半数の生徒が1日2時間以上携帯電話やスマートフォンを使用している。
- 4時間以上使用している生徒は1割。

図23 平日の使用時間(2年生)



- 約半数の生徒が1日2時間以上携帯電話やスマートフォンを使用している。

図24 使用する場面(1年生)



- 「夜、ふとんやベッドに入ってから」が半数を超える。
- また、「勉強しながら」「テレビを見ながら」「食事をしながら」といった、「～しながら」の利用が多く、学習習慣や睡眠・生活習慣への影響が懸念される。

図25 使用する場面(2年生)

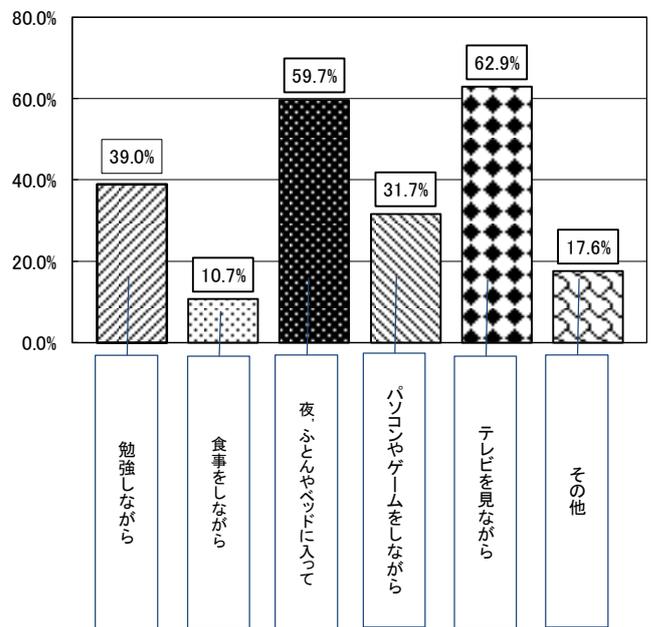


図26 使用時間と正答率

【Q17】 平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどのくらいですか

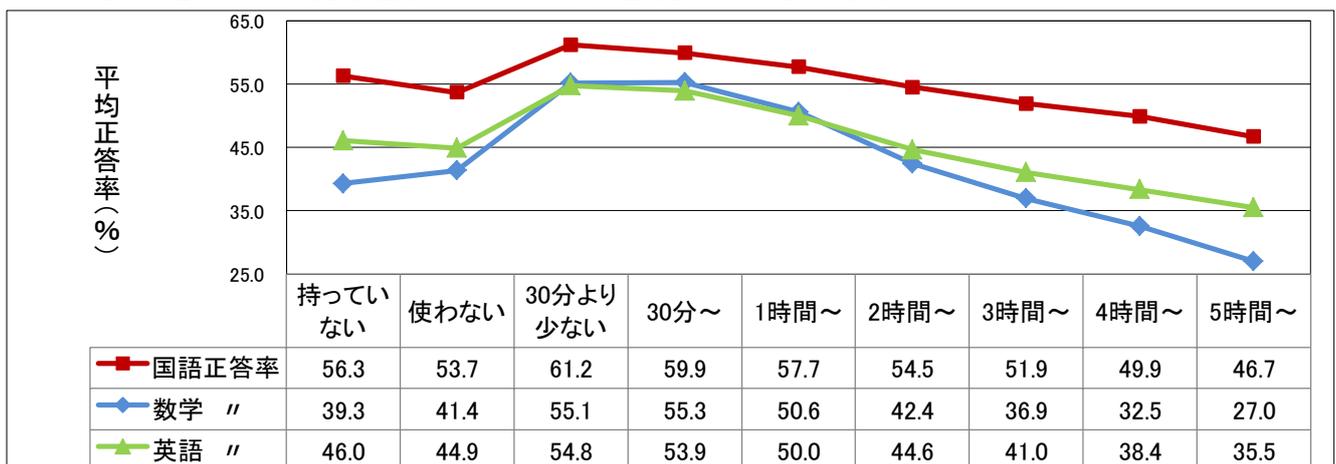
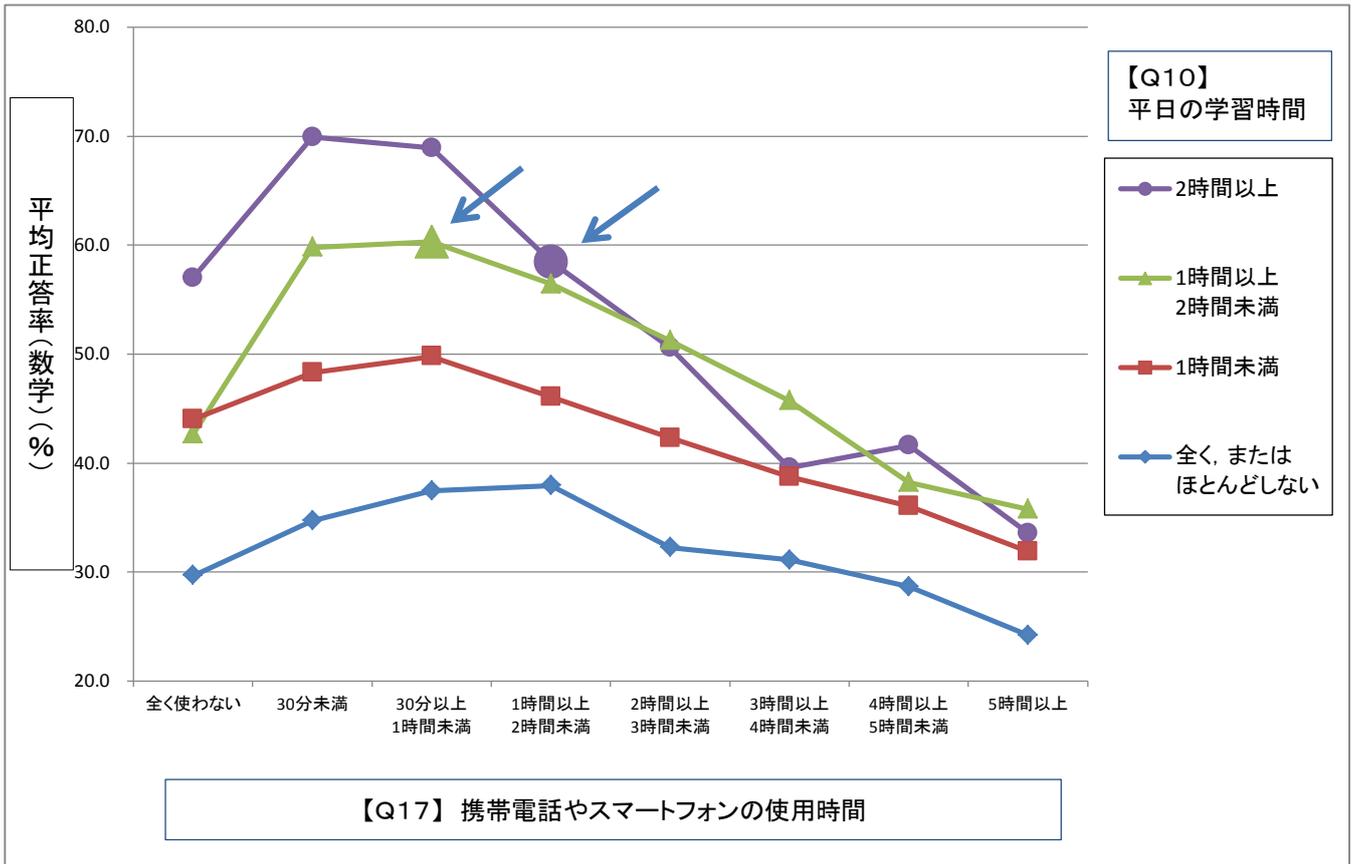


図27 学習時間と携帯電話使用時間, 正答率



「ケータイは、勉強の効果を打ち消す!？」

- 学習時間と正答率については、相関が見られる(学習時間が確保されている生徒ほど、正答率が高い。)
- 同じ学習時間の場合、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長くなるほど正答率は低減しており、使用時間が学習効果に影響を与えていることがわかる。
- また、「学習時間」によらず、携帯電話等の使用時間が、1時間を超えると正答率が明らかに低下している。

※ 「1時間から2時間勉強し、携帯電話等を1時間未満使用する生徒(▲)」と「2時間以上勉強し、携帯電話等を1時間以上使用する生徒(●)」の成績が逆転していることがわかる。

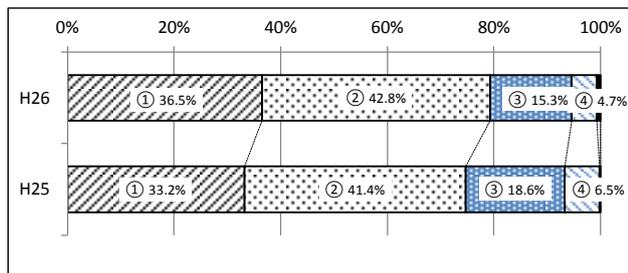
3 「震災後の心身の健康」、「志教育」等に関する調査

I 震災後の心と体の安定について

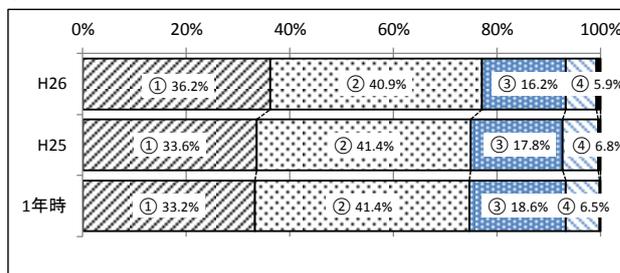
(1) 毎日同じくらいの時刻に寝ている(生活習慣について)【Q32】



①【1年生】



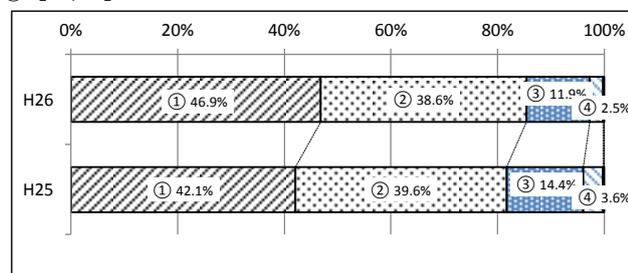
②【2年生】



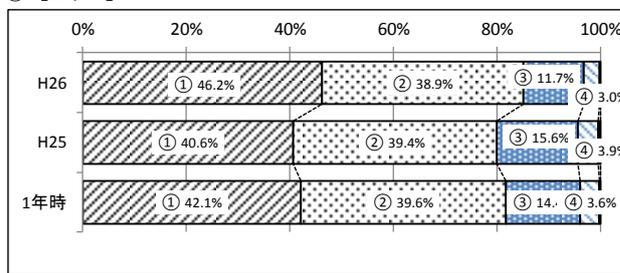
・睡眠の様子からは、生活習慣はほぼ安定している。就寝時間が安定しない生徒も20%程度いる。

(2) 体調はよい(体調管理について)【Q33】

①【1年生】



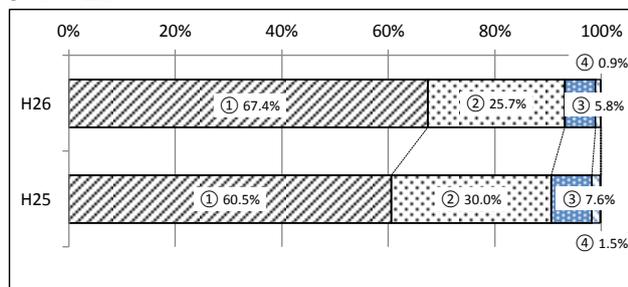
②【2年生】



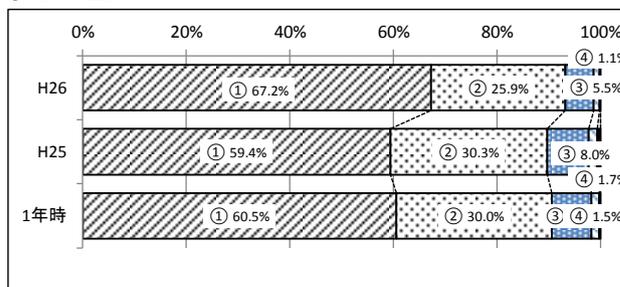
・体調管理は概ね良好で、肯定的回答の割合は、前年度より増加している。2年生では、1年時よりさらに増加している。

(3) 食欲はある(食生活について)【Q35】

①【1年生】



②【2年生】

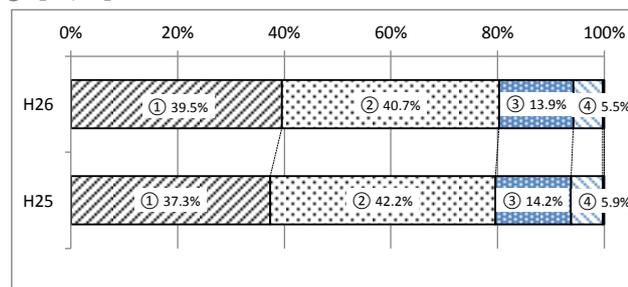


・ほとんどの生徒が食欲があると回答しており、肯定的回答の割合が前年度より増加。2年生では、1年時からさらに増加。

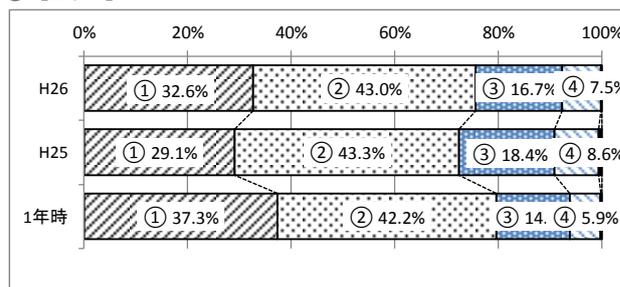
II 震災後の学校生活について

(1) 学校生活に充実感や満足感を感じている(学校生活について)【Q36】

①【1年生】

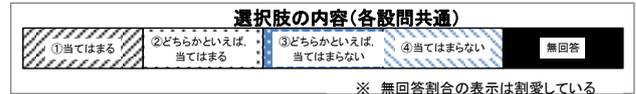


②【2年生】

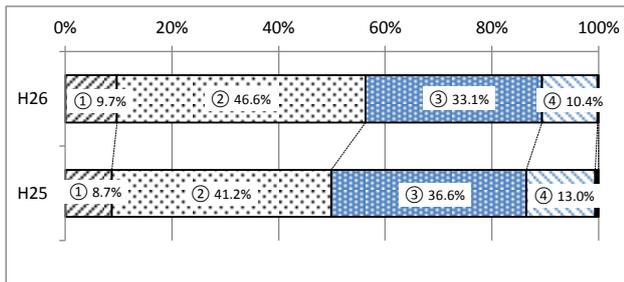


・学校生活に充実感や満足感を感じている生徒の割合は8割程度。2年生では、1年時から減少。

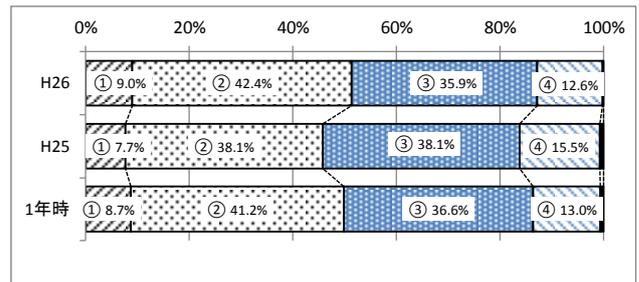
(2) 集中して勉強できている(勉強について)【Q43】



① 【1年生】



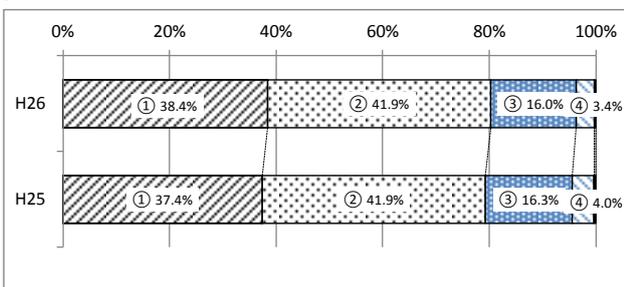
② 【2年生】



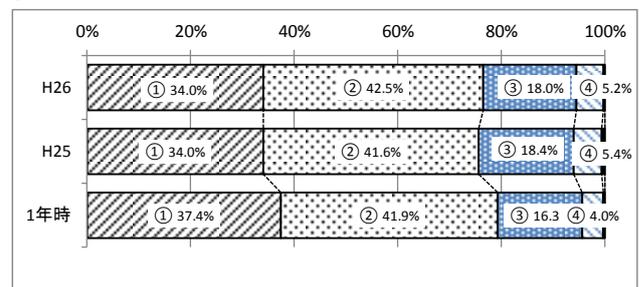
・集中して勉強できている生徒の割合は50%超で、前年度よりも増加。2年生では、1年時からさらに増加

(3) クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる(はたす)(学校行事について)【Q59】

① 【1年生】



② 【2年生】

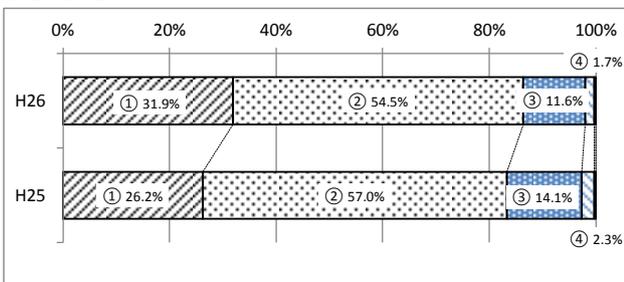


・学校生活に積極的に取り組んでいると回答した生徒は8割程度で前年度よりも増加。2年生は1年時よりも減少

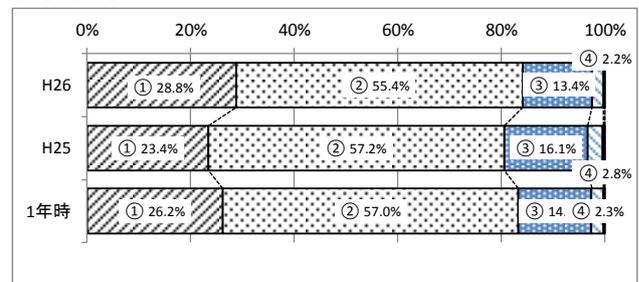
Ⅲ 「志教育」に係る意識の変化について1

(1) 人が困っている時は、進んで助けるようにしている(かかわる)(他者理解について)【Q38】

① 【1年生】



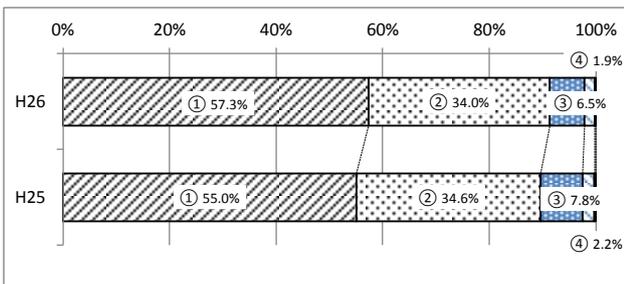
② 【2年生】



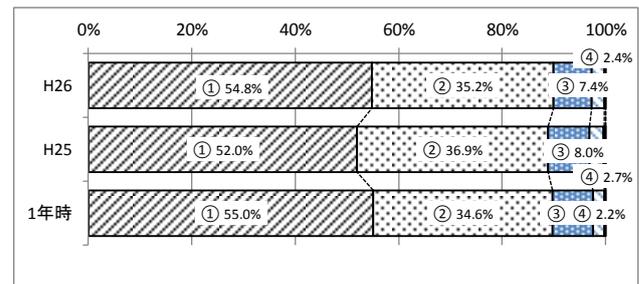
・人が困っているときに、進んで助けるようにしている生徒の割合は8割。2年生では1年時より増加。

(2) 人の役に立つ人間になりたいと思っている(もとめる)(志について)【Q49】

① 【1年生】

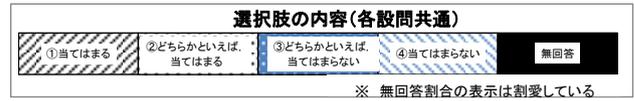


② 【2年生】



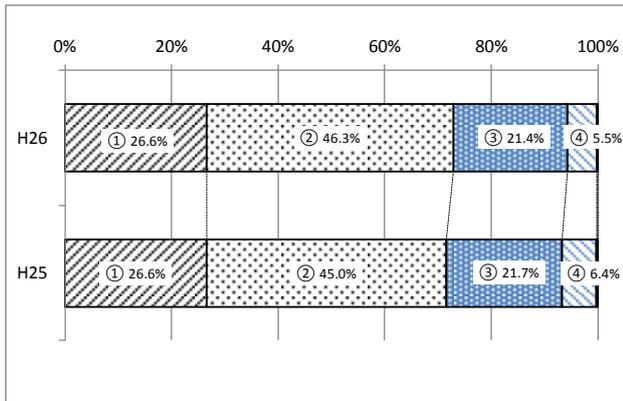
・人の役に立つ人間になりたいと思っていると回答した生徒は9割、前年度より増加している。

IV 「志教育」に係る意識の変化について2

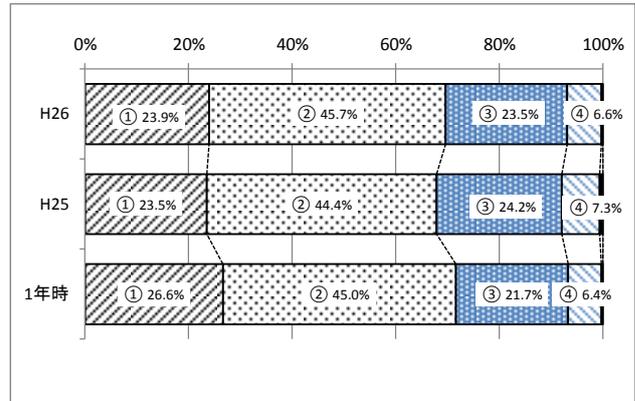


(1) 自分の個性や適性が分かっている(もとめる)(自己理解について)【Q52】

①【1年生】



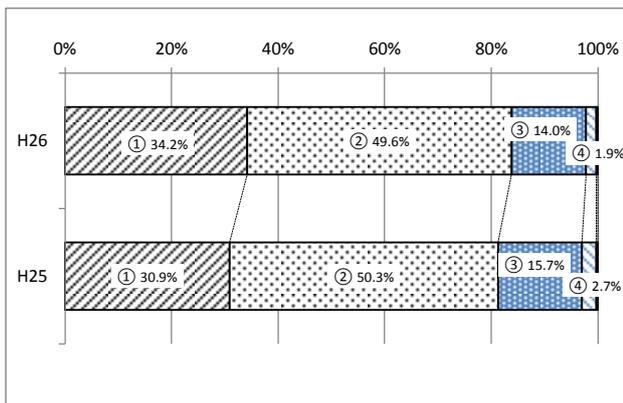
②【2年生】



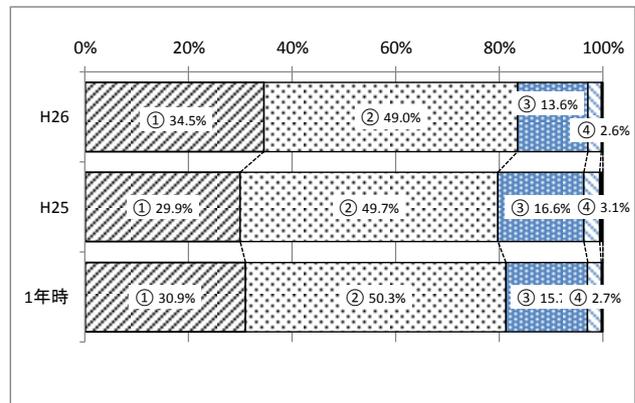
・自分の個性や適性が分かっていると回答した生徒は7割で、前年度よりも増加。

(2) 働くことの意義を理解している(はたす・もとめる)(勤労観・職業観について)【Q57】

①【1年生】



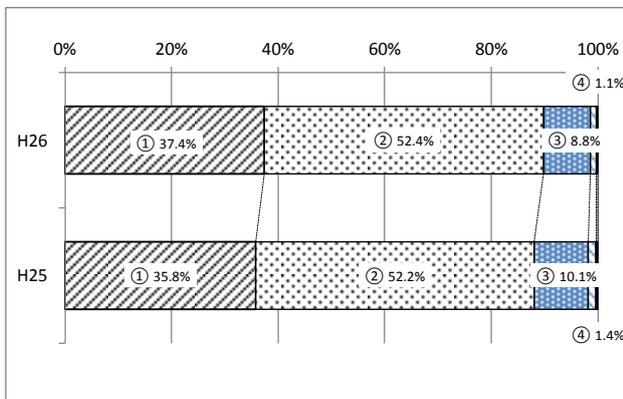
②【2年生】



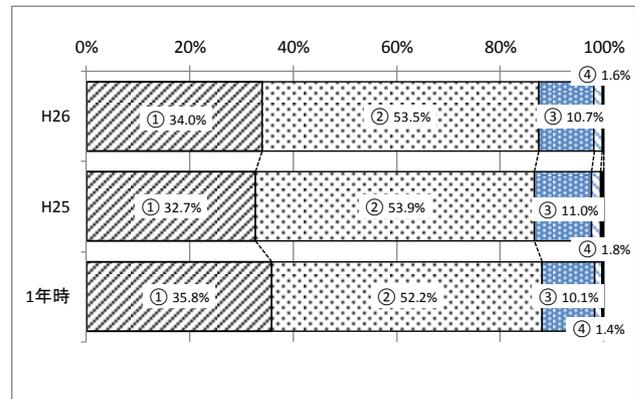
・働くことの意義を理解していると回答した割合は、前年度より増加し8割を超えている。2年生では1年時からさらに増加

(3) 自分の役割に責任を持って行動している(はたす・もとめる)(有用感について)【Q58】

①【1年生】



②【2年生】



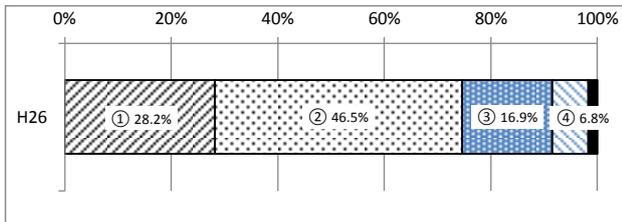
・自分の役割に責任を持って行動していると回答した割合はおよそ9割で、前年度よりも増加している

V 高校入試について

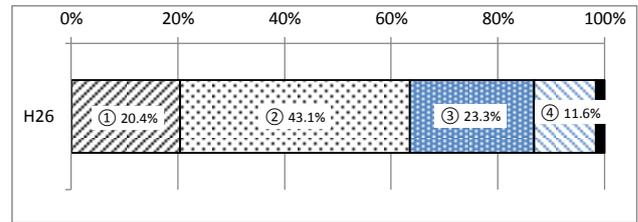


(1) 高校入試(学力検査)は、学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っている(学力向上について)【Q44】

①【1年生】



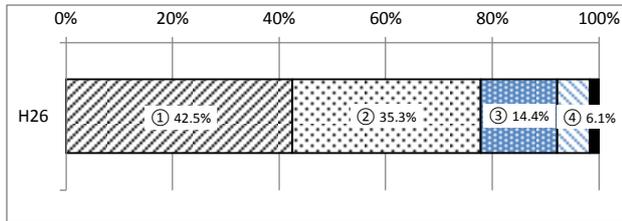
②【2年生】



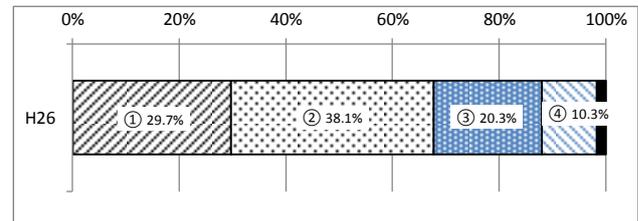
・1年生で7割、2年生で6割を超える生徒が、学力検査の実施が学習意欲の喚起や学習習慣の形成に役立っていると回答。

(2) 高校入試は、将来について考える機会になった(主体的な進路選択について)【Q45】

①【1年生】



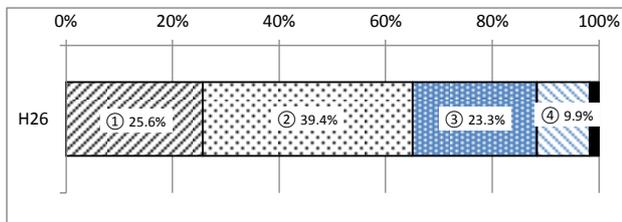
②【2年生】



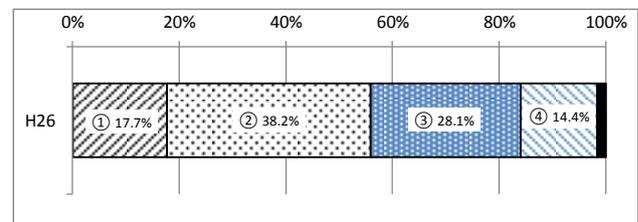
・1年生でおよそ8割、2年生でおよそ7割の生徒が、高校入試は、将来について考える機会になったと回答。

(3) 高校入試は、中学校生活や高校生活の充実につながっている(学校生活の充実について)【Q46】

①【1年生】



②【2年生】



・1年生で65%、2年生で55%以上の生徒が、高校入試は、中学校生活や高校生活の充実につながっていると回答。

新入試制度のねらい

我が県の入試制度は、入試を通じ、中学生が、高校生活や、その先の自らの将来について展望する契機とすることで、受験生の主体的な進路選択と目的意識の明確化を促し、ひいては、一人ひとりの学校生活の一層の充実につなげることをねらいとしている。

◎ 調査結果からは、各高校の進める特色づくりや、これを踏まえた出願基準の設定、学力検査の導入等の制度変更により、中学生の主体的な進路選択と目的意識の明確化、学習意欲の喚起等、新入試制度のねらいに沿った効果が表れている。

Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

生徒が安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と生徒、生徒同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくこと、そして、家庭とも連携しながら、学習習慣や生活習慣について点検し、改善を図っていくことが必要です。

○「分かる授業」の実践

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒も半分程度いる。また、学びなおし等、早期からのつまづき対策も必要。誤答分析等調査結果を十分活用し、授業改善と授業力向上に努める。

○家庭学習時間の確保

家庭で2時間以上学習している生徒の割合は、2割弱にとどまっている。適度な量の宿題を課したり、点検のための小テストをすることは、学習習慣の定着にもつながり有効である。また、生徒の実情により、学習記録簿の活用等とあわせると効果的。

○「志教育」の充実

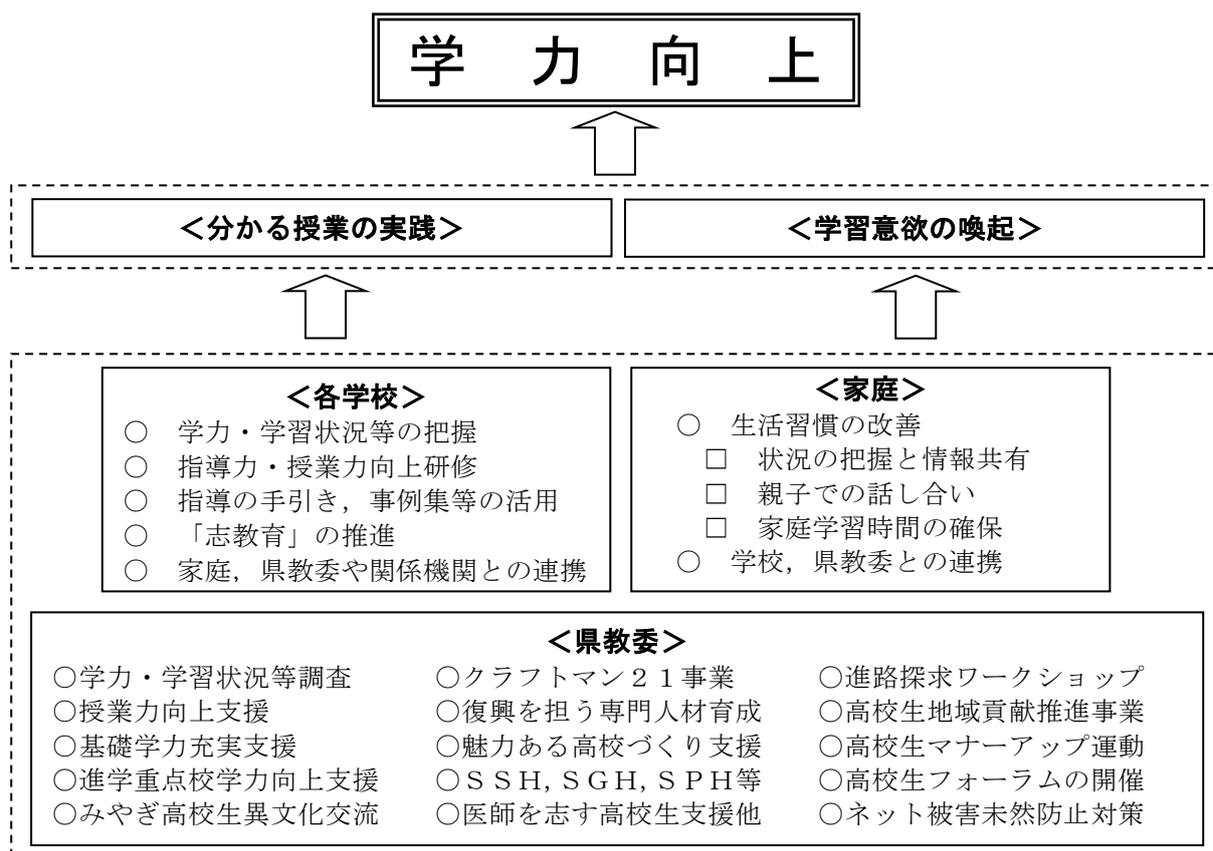
社会人講師を招いての講演会やワークショップ等の啓発的な体験活動を教育計画に取入れることは、社会や職業に対する認識を深め、自分が将来どのように社会に参画していくかを考えさせる上で有効。また、その後の学習意欲や学習態度の改善にも効果が期待できる。

○生活習慣の改善、家庭と学校との連携

食事や睡眠等の生活習慣の乱れや、携帯電話やスマートフォン、ネット等への依存的傾向が、学習や生活に支障を及ぼす等の影響がでている。家庭でも、生活習慣や携帯電話やスマートフォン等の使用時間や使用方法等について話し合う機会を設けるなど、家庭と連携した対策を講じていく必要がある。

○生活習慣の改善、自己教育力を高める取組

教科「情報」や関係機関と連携した講演会等を通じて、ネット社会の利便性に併存する危険性についての正しい理解を促すと共に、生徒が、身の回りにある様々な課題について、自ら考え・自ら学ぶ機会を設けるなど生徒の自己指導力・自己教育力を高める機会を設けていく。



宮城県総合運動公園総合体育館ネーミングライツ契約の更新について

1 ネーミングライツ契約企業

セキスイハイム東北株式会社

代表者 渡辺 博行（代表取締役社長）（平成27年1月1日付け）

所在地 仙台市青葉区本町三丁目4番18号

2 施設名称（愛称） 「セキスイハイムスーパーアリーナ」

3 契約金額 1年当たり 1千万円（消費税及び地方消費税は別途）

4 契約期間 平成27年4月1日から平成30年3月31日まで（3年間）

5 更新経緯

現契約スポンサー企業であるセキスイハイム東北株式会社には、契約更新の優先交渉権があり、同社から契約更新の申込みがあった。

更新申込みを受け、宮城県教育委員会広告審査委員会（12月16日）において、企業の財務状況、コンプライアンス経営、地域貢献等の状況、名称（愛称）及び契約金額等について審議し、契約の更新を決定した。

【参考】

	更新申請内容	これまでの契約内容
スポンサー 企業名	セキスイハイム東北株式会社	セキスイハイム東北株式会社
名称 (愛称)	セキスイハイムスーパーアリーナ	セキスイハイムスーパーアリーナ
金額(税別)	10,000千円/年	10,000千円/年
契約期間	【3期目】 平成27年4月1日～平成30年3月31日 (3年間)	【1期目】 平成21年4月1日～平成24年3月31日 【2期目】 平成24年4月1日～平成27年3月31日

教育庁関連情報一覧（平成26年12月17日～平成27年1月14日）

NO.	概要
1	<p>○点字ブロック啓発運動を開催 視覚障害者のための点字ブロックの上に、自転車等の車両や荷物などが無作為に置かれてい る現状を改善し、視覚障害者の歩行の安全を守るために、点字ブロック等に関する理解・啓発 を行った。</p> <p>【概要】 期 日 平成26年12月17日（水）午後1時20分から午後3時まで 場 所 JR仙台駅2階ペデストリアンデッキ付近 内 容 県立視覚支援学校の生徒、教職員、保護者が、点字ブロック等への理解、啓発のため、ラベル 入りポケットティッシュを配り、通行する人に呼び掛けを実施</p>  <p>(担当：特別支援教育室)</p>
2	<p>○宮城野高校美術科の生徒等が制作した絵画等をホテル白萩で展示 宮城野高校美術科の在校生や卒業生が制作した絵画等をホテル白萩のロビー及びレストラン で展示し、活動状況の情報発信を行っている。</p> <p>【概要】 期 日 平成26年12月20日（土）から平成27年2月1日（日）まで 場 所 ホテル白萩 ロビー、レストラン丹頂 その他 年間を通じて継続的に開催していく予定</p>  <p>(担当：高校教育課)</p>

NO.	概要
3	<p>○塩釜高校吹奏楽部・合唱部が 社の都信用金庫 県民ロビーコンサート に出演 塩釜高校吹奏楽部・合唱部が「第302回 社の都信用金庫 県民ロビーコンサート」で無伴奏女声合唱の「なみだうた」, 「言葉にできない」, 「花は咲く」など華やかなステージを披露した。</p> <p>【概要】 期 日 平成26年12月24日 (水) 場 所 県庁1階の県民ロビー その他 平成24年度 吹奏楽部は「全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜」に出場 平成25年度 合唱部は「声楽アンサンブルコンテスト全国大会」で7位に入賞</p> <p>(担当：生涯学習課)</p> 
4	<p>○都道府県対抗駅伝競走大会に宮城県選手団が出場 天皇盃第20回都道府県対抗男子駅伝競走大会・ひろしま男子駅伝競走大会に出場する宮城県選手団及び関係者が, その報告のため1月9日 (金) に県を表敬訪問した。</p> <p>【概要】 大会名 天皇盃第20回都道府県対抗男子駅伝競走大会・ひろしま男子駅伝 期 日 平成27年1月18日 (日) 12:30スタート 会 場 コース：広島県 平和記念公園前 ⇄ JR前空駅東 参 考 1月11日 (日) 開催の皇后盃第3回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会では第36位</p> <p>(担当：スポーツ健康課)</p> 

NO.	概要
5	<p>○農業高校が第2回高校生ビジネスプラン・グランプリ最終審査会で審査員特別賞を受賞 農業高校が第2回高校生ビジネスプラン・グランプリにおいて、ファイナリスト10組に選出され、最終審査会で審査員特別賞を受賞した。</p> <p>【概要】 大会名 第2回 創造力, 無限大∞ 高校生ビジネスプラン・グランプリ 期 日 最終審査会 平成27年1月11日 (日) 会 場 東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール 主 催 日本政策金融公庫 出場数 エントリー総数 1, 717件 (207校) 発表プラン 「最新ARグラス観光で雇用を創出! 〜待の力で歴史を体感! 咲かせよう白石城下町〜」 観光客向けのITサービスの提供による被災地復興のビジネスプラン</p> <p>(担当: 高校教育課)</p> 
6	<p>○明成高校 男子バスケットボール部 が高校バスケットボール選抜優勝大会で優勝 第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会で2年連続3度目の優勝を果たした明成高等学校男子バスケットボール部の選手及び関係者が、その報告のため1月14日(水)に県を表敬訪問した。</p> <p>【概要】 大会名 東日本大震災復興支援 JX-Eneosウインターカップ2014 期 日 平成26年12月23日(火)から12月29日(月)まで 会 場 東京体育館 参 考 今年度のインターハイで第2位</p> <p>(担当: スポーツ健康課)</p> 

平成27年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況(12月末現在)について

	H26.3月末	H26.7月末	H26.8月末	H26.9月末	H26.10月末	H26.11月末	H26.12月末	前年同月	増減 (当月-前年同月)
内定率	98.6%	—	—	43.0%	67.7%	83.2%	90.0%	87.2%	2.8%
男子	98.9%	—	—	45.5%	69.6%	85.9%	92.0%	88.2%	3.8%
女子	98.2%	—	—	39.7%	65.2%	79.6%	87.3%	85.8%	1.5%
全国平均	96.6%	—	—	—	71.1%	—	—	85.3%	—

内訳

卒業者	19,869	20,040	20,027	20,019	19,988	19,967	19,957	19,945	12	
進学希望者	14,786	14,727	14,771	14,811	14,872	14,963	14,959	14,875	84	
臨時的仕事希望者	241	58	68	75	86	109	135	106	29	
進路未定者	61	176	140	136	98	83	86	109	-23	
就職希望者	4,781	5,079	5,048	4,996	4,931	4,808	4,777	4,855	-78	
内訳	県内	4,069	4,465	4,289	4,189	4,112	3,950	3,909	4,155	-246
	県外	712	614	759	807	819	858	868	700	168
	職安・学校紹介	4,041	4,262	4,178	4,109	4,148	4,167	4,163	4,140	23
	縁故・自営	371	128	171	192	215	214	213	298	-85
	公務員	369	689	699	695	568	427	401	417	-16
就職内定者	4,713	—	—	2,149	3,339	3,999	4,300	4,234	66	
内訳	県内	4,006	—	—	1,622	2,640	3,215	3,478	3,581	-103
	県外	707	—	—	527	699	784	822	653	169
	職安・学校紹介	3,996	—	—	2,089	3,131	3,578	3,818	3,718	100
	縁故・自営	352	—	—	60	111	127	143	195	-52
	公務員	365	—	—	0	97	294	339	321	18
就職未内定者	68	—	—	2,833	1,592	809	477	621	-144	
月間受験者数	86	—	—	4,054	822	641	347	348	-1	

【概況】※()内は前年同月

- ① 就職内定率 : 90.0% (87.2%)
- ② 進路希望の割合状況 : 進学 75.0% (74.6%) 就職 23.9% (24.3%)
 割合状況 : 臨時的仕事 0.7% (0.5%) 未定 0.4% (0.5%)
- ③ 就職希望者の割合 : 県内 81.8% (85.6%) 県外 18.2% (14.4%)
- ④ 県内外の内定率 : 県内 89.0% (86.2%) 県外 94.7% (93.3%)
- ⑤ 内定者の割合 : 県内 80.9% (84.6%) 県外 19.1% (15.4%)
- ⑥ 学科別内定率

学科別内定率	普通科	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	その他	総合学科
平成26年度	85.3%	94.7%	96.4%	88.3%	92.9%	90.4%	87.5%	92.5%
平成25年度	80.0%	94.1%	95.3%	90.2%	94.6%	81.8%	76.9%	89.1%

⑦地域別内定状況

地域別内定率	仙台	大和	石巻	塩釜	古川	大河原	白石	築館	迫	気仙沼
平成26年度	88.0%	93.0%	84.9%	86.8%	92.2%	90.8%	98.3%	95.9%	92.0%	95.0%
平成25年度	84.2%	89.1%	83.6%	80.7%	91.7%	90.5%	93.1%	92.3%	91.0%	90.7%

⑧宮城労働局発表 県内求人倍率(11月末現在)(職安学校紹介のみ、ただし支援学校・通信制含む)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
県内求人数	5,666	3,297	3,489	4,389	6,418	7,443	9,040
県内求職者数	4,350	3,814	3,793	3,112	3,517	3,558	3,432
求人倍率	1.30	0.86	0.92	1.41	1.82	2.09	2.63

資料配付 (3)



アヴァンギャルドを見つめつづけた反骨の評論家の足跡

わが愛憎の画家たち
 針生一郎と
 戦後美術



山下菊へあげほの村物語 1953年 東京国立近代美術館

2015年1月31日|土|~3月22日|日|

休館日=毎週月曜日 開館時間=午前9時30分~午後5時(発券は午後4時30分まで)

主催=宮城県美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会/ミヤギテレビ 協賛=ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン日本興亜 助成=芸術文化振興基金

観覧料=一般1,000(900)円/学生800(700)円/小・中学生・高校生400(300)円 ()内は20名以上の団体

宮城県美術館 The Miyagi Museum of Art

〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1 Tel.022-221-2111 <http://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>



芸術文化振興基金助成事業



丸木位里・俊《原爆の図 幽霊》1950年 原爆の図丸木美術館



齋藤義重《鬼》1957年 神奈川県立近代美術館



岡本太郎《重工業》1949年 川崎市岡本太郎美術館



勅使河原宏《昼食》1953年 一般財団法人 草月会 撮影:内田芳孝



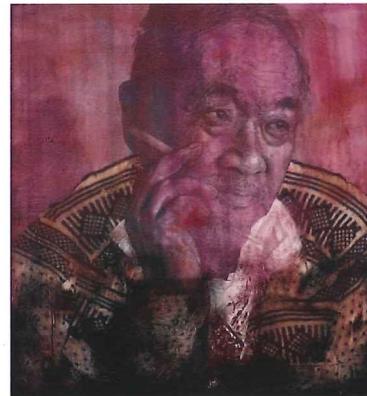
阿部展也《飢え》1949年 神奈川県立近代美術館



立石紘一《哀愁列車》1964年 高松市美術館



中村正義《源平海戦絵巻 第2図(海戦)》1964年 東京国立近代美術館



ラインハルト・サビエ《壁の痕跡すら読みとる人間の知恵—死の国の馬たちに囲まれた針生一郎氏像》(3枚組のうちの中央) 1997年 個人蔵

芸術の自律性とは、芸術の領域を境界線でくぎって、それ以外のあらゆる要素を排除するのではなく、社会と人間のあらゆる問題にかかわりながら、それらを想像力でつらぬくことによるのみ実現される、とわたしは信じている。

——針生一郎『わが愛憎の画家たち』あとがき

仙台市出身の針生一郎(1925-2010)は、文芸評論から出発しましたが、1950年代に刊行された雑誌『美術批評』に芸術論や展覧会評を寄稿して注目され、中原佑介、東野芳明とともに“美術評論の御三家”と呼ばれる存在となりました。戦後、美術が自律した芸術表現として純粋性の追求に向かう潮流の中で、針生は一貫して「社会と人間」という視点をもって、作家たちの表現行為と作品を批評してきました。そして、行動する評論家として、晩年までさまざまな文化運動にも関わり続けました。現実を見据え、そこに前衛としての芸術家の在り方と創作の意義を問い続けた針生の思想と活動は、敗戦から今日に至る日本の美術史に、ひとつの地下水脈を形成してきたといえましょう。この展覧会では、主に1950~70年代に針生が関わった芸術運動や展覧会に焦点をあて、著書『わが愛憎の画家たち』などで論評した作家と作品を紹介し、ひとりの評論家の視線を通して戦後美術史を再読します。

■映画上映会

- ①『日本心中 針生一郎・日本を丸ごと抱え込んでしまった男』
監督=大浦信行 出演=針生一郎、大野一雄ほか
2001年 90分 (DVD版) 1月31日(土)/2月22日(日)
- ②『9.11-8.15 日本心中』
監督=大浦信行 出演=針生一郎、重信メイ、金芝河ほか
2005年 145分 (DVD版) 2月1日(日)/2月21日(土)
会場:アート・ホール(入場無料) 各日とも午後1時30分~

■学会員による展示解説

- 2月11日(水・祝)/2月28日(土)
*各日とも午後2時~、観覧券をお求めの上、2階展示室入口にお集まりください。

次回特別展予告

「杉戸 洋展」2015年5月2日(土)~7月26日(日)

■美術館講座「戦後の美術と批評をめぐって」

- 3月1日(日)「戦後からの出発—日本の前衛芸術家たち」
池田龍雄氏(画家)
 - 3月8日(日)「批評の英雄時代—戦後美術と戦後批評の成立」
光田由里氏(美術評論)
 - 3月15日(日)「現代美術と批評(仮題)」
榎木野衣氏(美術評論・多摩美術大学美術学部教授)
 - 3月22日(日)「批評の闘争/事物の思考—針生一郎を読む」
沢山遼氏(美術評論)
- 会場:アート・ホール(聴講無料) 各日とも午後1時30分~(90分程度)
*要事前申込 申込先:当館教育普及部(022-221-2114)

■まちなか美術講座

- 2月7日(土)「美術評論家針生一郎が見た戦後美術」
三上満良(当館副館長)
- 会場:東北工業大学一番町ロビー 午後1時~



【交通案内】

- バス利用の場合:
 - ① 仙台駅西口バスプールにて仙台市営バス「交通公園行(広瀬通経由)」(16番乗場)に乗り、二高・宮城県美術館前下車。または「宮教大行」(動物公園循環)(9番乗場)に乗り、国際センター西下車、北方向へ徒歩8分。
 - ② 広瀬通一番町バス停(仙台フォアラス前)からも「交通公園行(広瀬通経由)」バスをご利用になれます。
- るーぶる仙台バスの場合: 二高・宮城県美術館前下車。
- タクシーの場合: 仙台駅から約10分。
- 高速道路利用の場合: 東北自動車道・仙台宮城I.C.より仙台方面(仙台西道路)に入り、青葉城址方面を経由して美術館へ。I.C.より約15分。

宮城県美術館 The Miyagi Museum of Art
〒980-0861 仙台市青葉区川内元支倉34-1
Tel.022-221-2111 http://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/

わが愛憎の画家たち
針生一郎と
戦後美術

資料配付(4)

特別展 東日本大震災復興祈念

みちのくの

観音さま

人に寄り添うみほとけ

救いのみほとけ、集る。

重要文化財 十一面観音菩薩立像 勝常寺
公開期間：1/24(土)~2/8(日)
重要文化財 銅造聖観音菩薩坐像御正躰 若松寺
公開期間：2/10(火)~2/22(日)

平成27年

1/24(土) ▶ 3/12(木)

開館時間 午前9時30分~午後5時 休館日 月曜日
(発券は午後4時30分まで)

観覧料	一般	シルバー	高校生	小・中校生
カッコ内は団体料金	1000円(800円)	900円(720円)	500円(400円)	300円(240円)

*シルバーは昭和25年12月31日以前生まれの方。*上記料金で常設展も観覧できます。

割引情報 ★友人・家族割引:本展に限り、3名様以上で団体料金を適用いたします。
★2月14日(土)は団体料金でご覧いただけます。

展示解説 毎週水・土曜 午前11時~(特別展観覧券が必要です)

【主催】 東北歴史博物館・福島県立博物館 [宮城・福島観音プロジェクト実行委員会] NHK 仙台放送局

【共催】 河北新報社

【後援】 多賀城市 多賀城市教育委員会 多賀城市観光協会 多賀城・七ヶ浜商工会

TBC東北放送 NHK仙台放送 KHB東日本放送 MBSテレビ

朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 産経新聞社東北総局 エフエム仙台 宮城ケーブルテレビ

東北歴史博物館
TOHOKU HISTORY MUSEUM

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1
(JR東北本線国府多賀城駅となり)

TEL 022-368-0106

東北歴史博物館

検索

平成26年度文化庁
地域と共働した
美術館・歴史博物館
創造活動支援事業



(左上) 観音講図絵馬 山形県米沢市 幸徳院(笹野観音堂) / (左) 重要文化財 十一面観音菩薩立像 福島県湯川村 勝常寺 / (右) 国宝 線刻千手観音等鏡像 秋田県大仙市 水神社

この印刷物は再生紙を使用しています。

みちのくの観音さま

人に寄り添うみほとけ



《観音菩薩坐像》岩手県二戸市 天台寺



観音菩薩は仏教の尊像の一つで、東北地方では観音菩薩への信仰がとくにあつく、各地にその姿をあらわした像がまつられ、今に至るまで深く広く信仰を集めています。

これはひとえに、観音菩薩は今を生きる人々の願いや祈り、悩みや苦しみに寄り添い、自ら進んで人々を救うものと信じられてきたからに他なりません。だからこそ、どの時代の人々も観音菩薩をまつり、あつくうやまい、祈りをささげるなどして、観音菩薩をより身近に感じ、頼りとしてきたのです。

本展は、東北地方における観音菩薩と先人たちの深い関わりについて、文化財をとおして振り返ろうとするものです。

あの震災から間もなく4年が経とうとする今でも、それぞれに哀しみや苦難を抱えておられる方は少なくありません。先人たちが生きる希望をたくした観音菩薩の存在にふれて、もし、そこから少しでも心の安らぎや共感を得ていただけるとすれば、これ以上に幸いなことはありません。



重要文化財
《銅造聖観音菩薩坐像御正鉢》
山形県天童市 若松寺



《銅造十一面観音菩薩坐像》
福島県棚倉町 都々古別神社



《十一面観音菩薩立像》
宮城県石巻市 長谷寺



《聖観音菩薩立像》
宮城県石巻市 常春寺

関連行事

1. 講座

- ①1月24日(土)13:00~15:15 講座 入場無料
「観音講と安産への祈り」福島県立博物館学芸員 内山大介氏
「東北各地の観音札所めぐり」福島県立博物館学芸員 高橋充氏
- ②2月7日(土)13:00~14:00 研修室
「みちのくの観音像Ⅰ」当館学芸員 政次浩
- ③3月8日(日)11:00~12:00 研修室
「みちのくの観音像Ⅱ」当館学芸員 政次浩
- ④3月12日(木)13:00~15:15 講座
「観音堂の吊るし飾り-傘福とカサパコー」福島県立博物館学芸員 内山大介氏
「東日本大震災と観音さま」福島県立博物館学芸員 高橋充氏

2. 展示解説

- 11:00~ 特別展示室
※特別観覧券が必要です。
- 1月24日(土)
(解説:福島県立博物館及び当館学芸員)
- 以降、毎週水曜日及び土曜日
(解説:当館学芸員)
- 1月28日(水)・31日(土)・2月4日(水)・
7日(土)・11日(水祝)・14日(土)・
18日(水)・21日(土)・25日(水)・
28日(土)・3月4日(水)・7日(土)・11日(水)

★東京で13万人を動員した『医は仁術』展覧会が宮城にやってくる!

- ◎主催/東北歴史博物館、TBC東北放送、河北新報社
- ◎企画制作/国立科学博物館、TBSテレビ
- ◎会期/平成27年4月18日(土)~6月21日(日)
- ◎休館日/毎週月曜日(ただし5月4日は開館)
- ◎開館時間/9:30~17:00(※発券は16:30まで)

「医の原点は江戸にあった!」

本展では、当時の希少な解剖図などの史料の他、江戸時代の医療道具等も展示し、中国から来た漢方と西洋から来た蘭学が、「医は仁術」が実践された日本で、いかに独自に発展して人々を救ってきたかを探っていきます。

東北歴史博物館

TOHOKU HISTORY MUSEUM

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1
TEL 022-368-0101(代) FAX 022-368-0103(代)
Eメール thm-service@pref.miyagi.jp

お問い合わせ専用番号

TEL. 022-368-0106

東北歴史博物館

検索

東日本大震災復興祈念特別展 国宝・薬師寺の名宝、仙台限定特別公開!

『国宝 吉祥天女が舞い降りた!-奈良 薬師寺 未来への祈り-』

麻布に描かれた独立画像として現存最古の彩色画「国宝 吉祥天女像」など、薬師寺に伝わる貴重な文化財の数々を展示。巡回展ではなく、仙台市博物館のみで特別に開催!

- ◎会期/平成27年4月24日(金)~6月21日(日)
- ◎会場/仙台市博物館(仙台市青葉区川内26)

詳しくはホームページをご覧ください。⇒ <http://kichijo-tennyo-sendai.jp> [公式HP]

★『みちのくの観音さま』展の観覧チケット半券持参で『国宝 吉祥天女が舞い降りた!』展の観覧料が仙台市博物館窓口で割引となります。

お問い合わせは NHK 仙台放送局広報・事業部 (TEL.022-211-1016) まで。

JR線をご利用の方

- JR東北本線(仙台駅から14分)
「国府多賀城駅」隣り
- JR仙石線
「多賀城駅」下車 徒歩25分または
タクシー約10分

お車をご利用の方

- 仙台東部道路「仙台北IC」から約10分
- 仙台北部道路「利府しらかし台IC」から約15分
- 国道4号線若竹インターから国道45号線を
塩釜方向に8km(約25分)
- 仙台港フェリーターミナルから15分
- 無料駐車場(191台・大型バス10台)



この印刷物は再生紙を使用しています。

